

岡山市埋蔵文化財調査の概要

1997（平成9）年度

岡山市教育委員会

はじめに

20世紀も余すところ僅かとなり、わが岡山市も新しい世紀へ向けて、さまざまな分野で飛躍を果たすことが期待されています。文化財行政についても例外でなく、文化財の分野に関する市民の皆様の関心とニーズも近年とみに高まってまいりました。しかし、遺跡の開発と保護をめぐる調整、発掘調査成果のまとめや市民への還元、岡山城をはじめとする史跡整備の具体化など、いぜんとして難問が山積しているのが現状であります。

大量に出土する遺物の保管場所の確保も、いっそう厳しい状況となってまいりましたが、平成10年度には、国の補助金を得て、念願の埋蔵文化財センターの建設工事に着手することができました。この埋蔵文化財センターは出土品の保管だけでなく、発掘成果の整理や研究、さらに速報公開の機能を備えた、発掘調査の拠点としての役割をもち、平成11年度中に完成の予定です。

市民の皆様のご要望と文化財行政の現状には、まだまだ距離があるものと存じますが、平成9年度の事業と調査の内容をまとめた本書が、ご活用いただけ、文化財保護の一助となりますれば幸いです。

平成11年3月

岡山市教育委員会

教育長 戸村 彰孝

例　言

1. 本書は1997（平成9）年度の埋蔵文化財に関する事業と調査成果、および保護行政についての概要報告である。
2. 本書の編集は乗岡実が担当した。発掘調査の概要の執筆・図面作成は各担当者が分担して行った。また埋蔵文化財関連の協議と調整、受領図書一覧については、神谷正義が整理と原稿作成を行ったものである。
3. 本書に関する遺物、実測図・写真などは、岡山市教育委員会で保管している。
4. 発掘調査の概要是あくまでも速報性に重点をおいている。したがって調査成果が整理途上のものを含んでおり、正式な報告書刊行の時点で訂正される場合があることを、ご了承願いたい。
5. 実測、遺物の洗浄・整理、図版作成などで、多くの方々の協力を得ています。氏名の列記は省かせていただきますが、関係された皆様に感謝いたします。

目　次

I. 発掘調査の概要	3
II. 埋蔵文化財関連の協議と調整	36
III. 普及・啓発事業と刊行物	41
IV. 受領図書一覧	42
V. 資料紹介と研究ノート	53

文化課文化財係の紹介

1. 1997（平成9）年度文化財係の組織図と仕事



2. 担 当 職 員

文化課長 米村 博
文化財専門監 山宮徳尚
課長補佐 根木 修
主　　査 神谷正義
主　　任 乗岡 実
文化財保護主事 犀崎 由
文化財保護主事 草原孝典
文化財保護主事 高橋伸二
文化財保護主事 河田健司
文化財保護主事 安川 滉

3. 収 藏 施 設

赤坂収蔵庫
芳田収蔵庫

I. 発掘調査の概要

発掘調査（第98条の2）

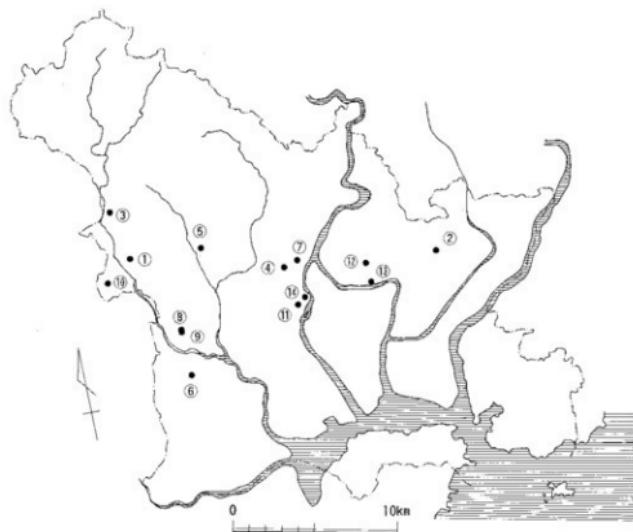
- ①備中高松城跡
- ②中尾平山遺跡
- ③糖山遺跡
- ④津島遺跡
- ⑤宗形神社古墳
- ⑥高尾貝塚
- ⑦津島江道（岡北中）遺跡
- ⑧庭瀬川崎遺跡
- ⑨庭瀬川崎（吉備公民館）遺跡
- ⑩造山第2号古墳

発掘調査（第57条2・3）

- ⑪岡山城二の丸（宇野自動車）遺構
- ⑫雄町遺跡
- ⑬兼基遺跡

発掘調査（国庫補助の史跡整備）

- ⑭岡山城本丸下の段



なかおひらやま中尾平山遺跡

所在地 岡山市中尾字平山、字辻畠他
調査原因 住宅団地造成
時代 古墳時代後期～古代

調査期間 970526～970701
調査面積 84,553.51m²
担当者 安川 満

遺跡の概要 中尾平山遺跡は、上道平野と砂川流域平野の分水嶺付近、小廻山と芥子山山塊の間の低丘陵上に立地する。小廻山の丘陵上には古代山城の大廻小廻山城跡、対面する上道北方の山腹には鉄滓や豊富なガラス製玉類を出土した塚段古墳群などが存在する。当遺跡は岡山市西祖山方前遺跡の発掘調査を契機に、旧上道郡域の製鉄関連遺跡を追及する過程で発見され、平山池西遺跡（仮称）として横口付き製炭窯である可能性が指摘されていた⁽¹⁾。また周辺の山裾から山腹や谷奥部には焼土や鉄滓が散布する地点が多く存在する。

調査の概要 当地はもと山林ないし長年放置された果樹園であったため、着工後に樹木が伐採されるのを待ち試掘調査を行った。その結果、2地点で焼土が散布する部分を確認し（1区・3区）、この2地点にまたがる範囲の山腹を調査対象とすることになった。焼土の検出された地点は比較的急な斜面を成すのに対し、2地点間の山腹はやや緩やかな斜面となっている。そのため工房跡や古墳などが存在する可能性も考え、計13本のトレンチを設定し、2地点間のほぼ中央で浅い土坑状の遺構を検出した（2区）。これ以外の地点に関しては、当初の分布調査、試掘調査では埋蔵文化財は確認しえなかったが、工事の進行に伴い立会調査を逐次行い、3区の西側、比高差にして約10m下の地点で1区・3区と同様の焼土が存在する地点を確認した（4区）。また、国道2号線沿いの丘陵裾部付近に上器細片の包含層を確認した（第5地点）。

1区 1区では（横口付き？）製炭窯1基を検出した（1号炭窯）。1号炭窯は北面する斜面にはほぼ平行に築かれているが、大半が小道による削平をうけており、窯体床の強焼成面のみが残っていた。強焼成面の西端部には浅い掘り込みがあり、強焼成面との境界付近にこぶし大から人頭大の角礫が多量に存在した。この礫は煙出しの石組みが壊れたものと思われる。また、前面の表土、流土中から平瓦数点、須恵器小片が出土した。平瓦は殆どが菱形叩文様をもつものである。すべて二次的に熱を受けていることから、1号炭



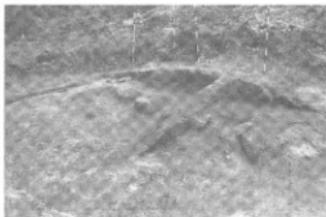
第1図 調査地点



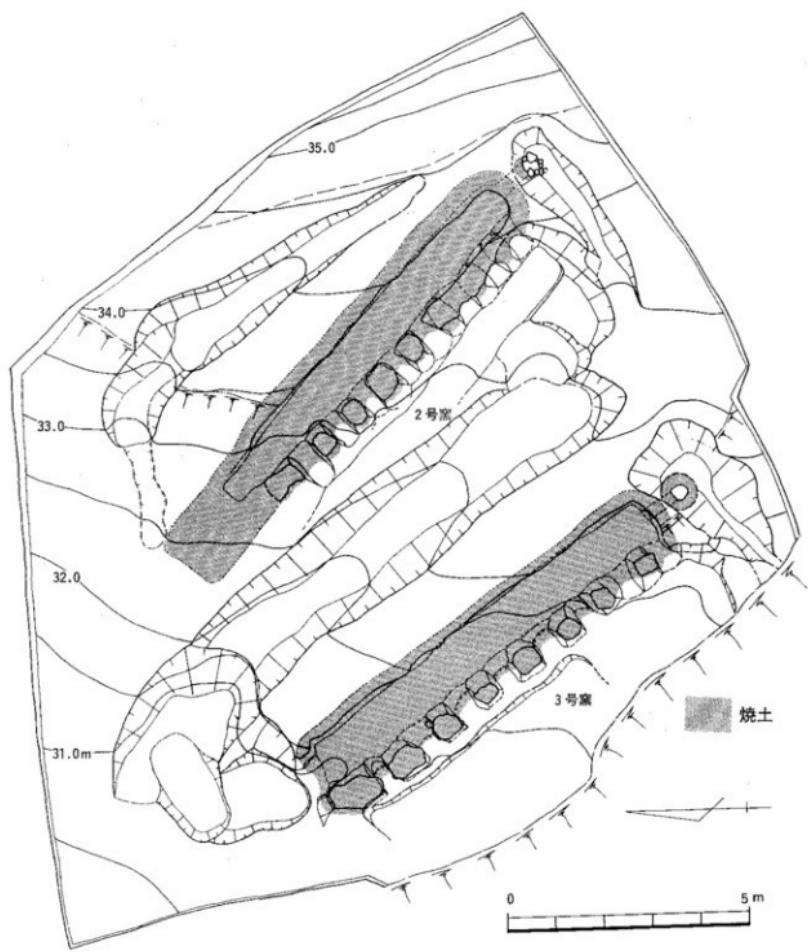
第2図 調査地点全景



第3図 3区2号窯・3号窯



第4図 4区4号窯



第5図 3区検出遺構



第6図 3号窯焼き口出土須恵器 (1/3)

窯の構造の一部に転用されていたものと考えられる。平瓦の年代観から1号炭窯の操業時期を推定するならば、菱形叩文様から賞田庵寺第2様式瓦併行、7世紀後半と考えられる⁽²⁾。一方、須恵器片は壺胴部と甕胴部と考えられる破片であり、時期を特定することはできないが、瓦片の示す年代観と大きく矛盾しないものと思われる。

2区 長辺1.0~1.5m程度の長方形の浅い土坑5基を3~4m間隔で検出した。当初、建物の柱穴の可能性を考えたが、いずれも表土直下から掘り込まれている。検出面のレベルにかかわらず深さ30cm程度と一定している。柱根痕などは認められず下面に木炭粒を含む薄い層を伴うなどの特徴をもち、果樹園の植樹穴である可能性が高い。

3区 横口付き製炭窯2基を検出した。2基は斜面に斜交して、互いにはほぼ平行する。上方のものを2号窯、下のものを3号窯と呼称した。2号窯は長さ約10m、幅約1mを測り、斜面下側に8つの横口を開ける。奥壁側に煙出しが暗渠で貫通して設けられ、煙道部はこぶし大から人頭大の角礫を積んで築かれている。奥壁側は残りが良く天井を欠くのみであるが、炊き口部は流出、あるいは削平により失われている。斜面上部には浅い溝が伴う。煙道掘り方内から土師器小片が出土している。3号窯は窯体の長さ約8.7m、幅約1mを測り、高さ約0.9mが残存している。煙出しへは2号窯と同様に暗渠で貫通し、煙道部はこぶし大から人頭大の礫を積んでいる。斜面下側に8つの横口を開け、その前面は平坦面が造成されている。後背部から炊き口にかけて溝と不定形の土坑が伴い、共に少ないが鉄滓（炉壁滓？）が出土している。また土坑の底面からほぼ完形の須恵器坏身も出土した。

3号窯の後背の溝に2号窯から出されたものと思われる多量の木炭、灰が含まれることから、3号窯が2号窯に先行するものと思われる。また、3号窯に伴う土坑から出土した須恵器はTK43~TK209併行と考えられる。

4区 横口付き製炭窯1基を検出した（4号窯）。奥壁側が破壊されており、炊き口から長さ約7mが残存している。窯体の幅約0.6m、高さは最も残りの良い部分で約0.6mを測る。前面には横口5つが残っており、炊き口から斜面下側に向かう溝が延びている。溝からは須恵器片が出土している。

第5地点 地表下1.1~1.2m付近に土器小片を含む厚さ20~30cm程の黒褐色砂質シルト層が存在したが、遺構を確認することはできなかった。第5地点周辺はもと小規模な谷状の地形を成すものと思われ、この包含層も谷状地形内に流入した斜面堆積と考えられる。出土土器は小片ばかりで時期を特定することはできないが、古代の範囲に入る時期のものと思われる。

ま と め 横口付き製炭窯を計4基検出できたが、製鉄炉は広範囲の探索にもかかわらず検出することはできなかった。しかし、わずかながらも鉄滓（炉壁滓？）が出土していることから、製鉄炉が近接して存在したものと思われる。

備前、特に旧上道郡域では西祖山方前遺跡の発掘調査以降、製鉄関連遺跡に注目が集まりつつある。しかし、伴出遺物が少ないとともあり、時期に関しては、塚段2号墳から出土した鉄滓をもって6世紀後半には開始されていたことが推定できるに止まっていた。今回、その操業時期の一端を具体的に検討できる資料を加えることができたことは重大な成果である。

注

(1) 神谷正義 1994 「上道郡における製鉄関連遺跡－その概況と評価－」『西祖山方前遺跡・西祖橿木（御体幼稚園）遺跡－岡山市浦郷・西祖地区における遺跡の展開－』岡山市教育委員会

(2) 出宮徳尚 1971 「第四章 遺物」『賞田庵寺発掘調査報告』岡山市教育委員会

すくも山遺跡

所在地 岡山市足守1578, 1580, 1580-1

調査原因 農地改良

時代 古墳時代～中世

調査期間 970527～970806

調査面積 600m²

担当者 草原孝典

遺跡の概要 備中南部の平野を南北に貫流する足守川が、山間部を抜けた最初の単位平野に位置する。遺跡があるすくも山は小規模な独立丘陵で、東西の長さが約67m、周囲の水田との比高差は10mほどである。しかしながら、京都神護寺所蔵の『備中國足守庄絵図』(1169年作成)にも描かれており、足守荘の景観にとって重要な位置を占める。また、戦国時代を扱った文献では、羽柴秀吉の水攻めで有名な「高松城の戦い」前後の戦いに関する毛利方の城である「すくも塚の城」が記されている。頂部には備前焼や五輪塔の破片が散布しており、中世墓の所在も予想された。



第1図 調査地点

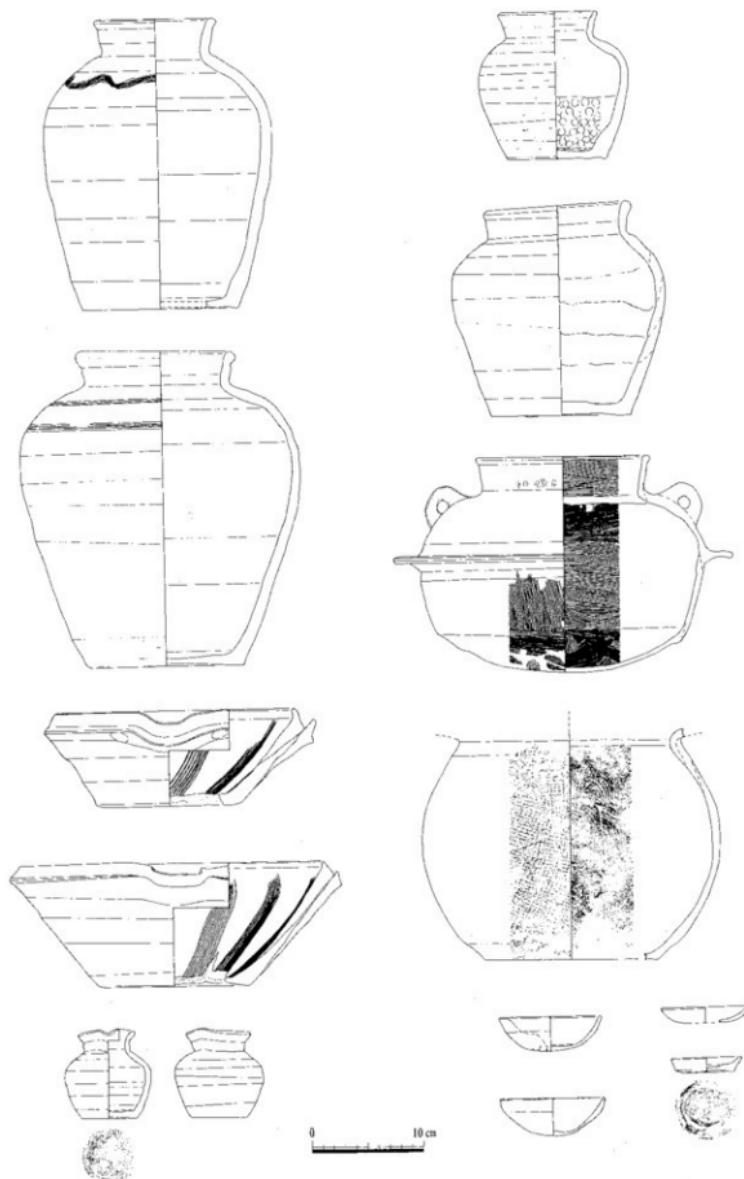
調査の概要 検出された遺構は、古墳時代の石棺と土壙墓、中世墓、城郭である。

古墳時代の石棺と土壙墓は、それぞれ1基ずつ検出した。遺構内からは遺物は出土していないが、付近から鉄剣などの鉄製品が出土し、副葬品であった可能性が高いと思われる。

中世墓は33基が検出された。頂部から東側斜面にかけて分布し、後の城郭や果樹園造成でかなり削平を受けており、本来はもう少し広い範囲にあった可能性がある。内容は土壙墓、土器棺墓、骨蔵器で、火葬骨がまとまって散布している地点もあることから、散骨のような埋葬形態もあったかもしれない。各墓はランダムに分布するではなく、数群にまとまる傾向が看取され、各群とも骨蔵器や土壙墓などを偏ることなく含んでいる。このことから、複数の墓域が並存する共同墓地であったと考えられる。中世墓地の年代は、共伴土器や骨蔵器から14世紀から16世紀で、15世紀のものが最も多い。

城郭については、頂部から東側にかけて郭が3面形成され、東端には幅2.3m、深さ1.4mの堀切が認められた。頂部の郭の南北両側には小石垣も存在しているが、郭の面積は最大のもので108m²と極めて小規模で、しかも東側のみを意識した造成であり、急造的な城郭と思われる。位置的な関係からも北にある毛利方の城である冠山城の出城と考えられる。「すくも塚の城」について従来は冠山城の別名といわれてきたが、冠山周辺には「すくも」の地名は認められず、足守全体でも「すくも」の地名が認められるのは、本「すくも山」だけであり、小規模とはいえ城郭遺構が検出されたことから、文献上にいう「すくも塚の城」は調査した城郭遺構をさす可能性が高いものと思われる。

まとめ 古墳は墳丘をもたない埋葬施設だけのもので不明な点が多いが、足守地域では5世紀末から6世紀前半にかけての古墳の実態がはっきりしておらず、こういった墳丘をほとんどもたない古墳が該期のものである可能性も考慮される。中世墓は、削平を受けてはいるが県南部の中世墓の調査例としてはまとまっており、当時の墓制を考える上で貴重な資料になるものと思われる。城郭については、極めて簡単な構造であることから砦的なものと考えられる。そして周辺の城郭との比較から冠山城の出城に位置付けられる。しかし、このような砦的な出城にもかかわらず文献上にでている。このことは、すくも山周辺でおこった織田対毛利の大大名間の激突により周辺地域が被った諸矛盾の一端を反映しているものと考えられる。すくも山の城郭遺構は戦国期の社会を考える上で興味深い遺跡であるといえる。なお当遺跡の報告書は1997年度末に『すくも山遺跡』として刊行した。



第2図 糖山遺跡出土遺物

津島遺跡

所在地 岡山市いずみ町
調査原因 下水道管理設
時代 弥生～

調査期間 970601～971008
調査面積 133m²
担当者 扇崎由

遺跡の概要 津島遺跡は弥生時代前期の集落と水田が一体としてとらえられ、また弥生後期に至るまでの生活遺構が連続と確認されるなど弥生時代の拠点集落としてつとに著名である。調査地点は国史跡指定地の北方にあたり、遺跡の広がりや性格の解明の一助となると期待された。

調査の概要

堅坑1 調査区の大半は既存の用水施設等

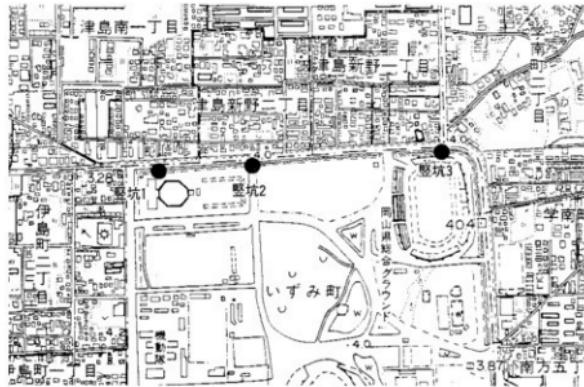
によってすでに毀損しており、わずかに現地表下2.2m、標高1.41mできわめて脆弱な基盤層の存在を確認したにとどまった。この下には湧水する粗砂層が存在する。

堅坑2 調査区のはば北半分は既存の用水路によりすでに破壊されており、調査できたのは幅2.5m、長さ9mの小範囲である。旧陸軍による造成前の水田層から基盤層までは水田土層堆積であり、明瞭な洪沢砂の堆積もみられない。現地表下2mの基盤面で検出した溝1は、やや東に向いた南北方向の溝で幅は上面で44cm底面で29cm、断面逆台形である。底面直上の7層は粘質強く耐水時の堆積と考えられるが、1～6層はむしろ基盤層や包含層の人为的埋め土と考えられる。溝1の埋土からは出土遺物はなく時期の決定にはいたらなかった。

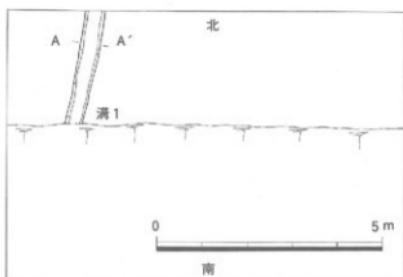
堅坑3 調査区南側に土層観察用土手を残しながら掘削を開始したが遺物包含層や基盤層は確認されず、旧河道上部の湿地堆積層に及んだ。土層観察用土手の自立限界と認め、いったん土層の記録を行ったところ、時期や流路方向は不明ながら土手西端と東端にそれぞれ1条ずつ溝を確認した。西の溝は、湿地堆積後に掘削されており、深さは50cm、西側の肩が確認されず斜行する溝と考えられる。東の溝は水田層との切り合い関係からおよそ中世頃の条里溝と推定される。

標高1m以下には旧河道堆積層が存在し、その上部で湿地性の貯藏穴などを予想し精査したが、確認されなかった。河道堆積層には有機質層があり流木の出土も多く、木製品の存在が期待された。旧河道上層のシルト層からは、下駄(右足用)、須恵器甕・壺、双孔円板などが出土し、7世紀頃の堆積と考えられる。以下の砂とシルトの互層堆積からは、建築部材や弥生後期・終末期の土器とともに古墳時代前期の土師器がある程度まとめて出土した。

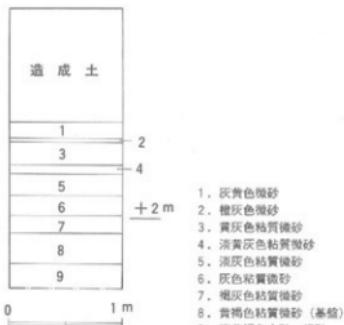
全体に標高20cmまで、一部では-50cmまで掘削したが、土器の出土量は著しく減少するもののいぜんとして同時期の土器の出土があり、当該時期の河道がさらに深くまで及ぶことを確認するにとどめた。



第1図 調査位置図



第2図 竪坑2 平面図



第3図 竪坑2 土層柱状図



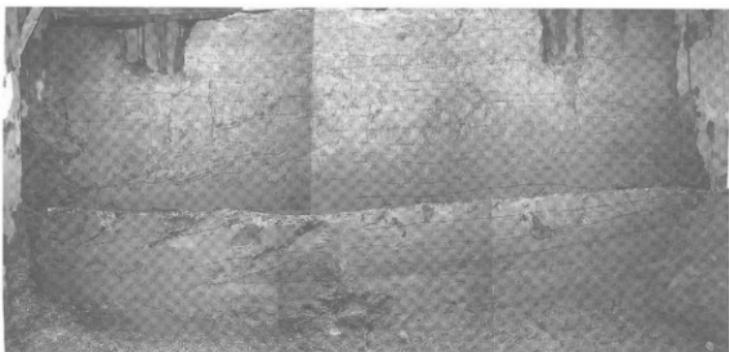
第4図 竪坑2 溝1 土層図



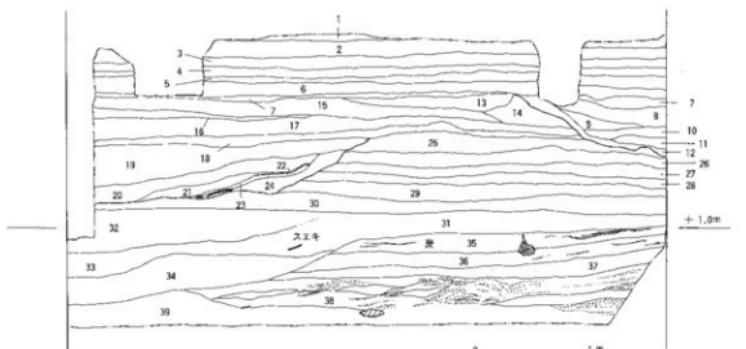
第5図 竪坑2 溝1 堆積状況



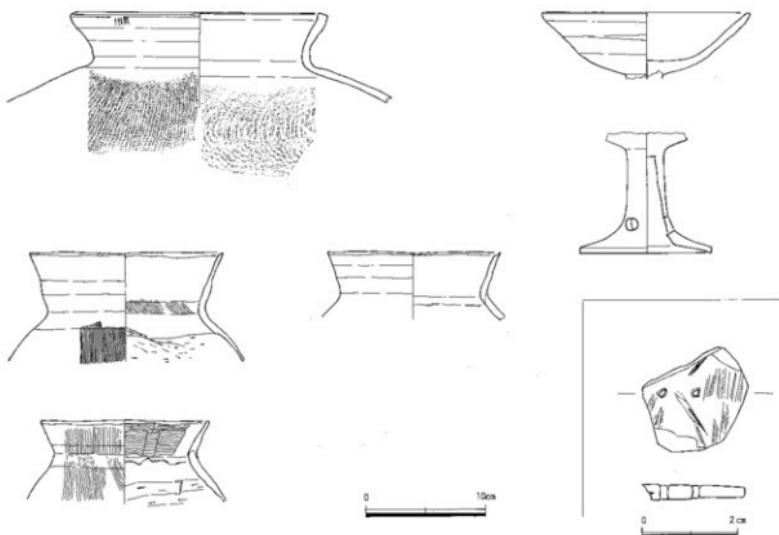
第6図 竪坑2 溝1 掘出状況



第7図 竪坑3 南壁堆積状況



第8図 堅坑3 南壁土層図



第9図 堅坑3 出土物

びつ 備 中 高 松 城 跡

所 在 地 岡山市高松

調査原因 市道改修

時 代 弥生時代～江戸時代

調査期間 970608～980331

調査面積 1200m²

担 当 者 高橋伸二・河田健司

遺跡の概要 備中高松城は足守川の東岸部に位置する微高地上に築城された平城である。付近では大規模な集落遺跡などが確認されているほか、丘陵部には大型の前方後円墳を含む多数の古墳が築造されている。

高松城はこれまでに、本丸の一部が調査されたのみで城郭全体の規模や構造については不明な部分も多い。

したがって、今回の調査では1582年（天正10）の羽柴秀吉による「水攻め」当時の城郭構造の検出が期待された。

調査の概要 調査は市道として拡張される部分のみを対象としたため、城郭の全容解明にはほど遠いものの、推定城郭域の南端部をほぼ東西に横断するかたちで行われた。

調査区西半は三の丸と推定される範囲にほぼ相当し、安定した微高地上に形成されている。城郭に伴う遺構として堀、井戸、柱穴などを確認した。また、弥生時代中期から古墳時代にかけての住居跡・貯蔵穴・溝などや、築城以前の中世の井戸、柱穴などを確認した。

検出された遺構は弥生時代から江戸時代までと長期にわたっているものの、廃城後に耕地化される際の地下げなどにより大きく削平を受けており、これらはほぼ同一面で検出された。

また、調査区東半は非常に深い湿地状の堆積が広がっており伝承のとおり天然の要害が形成されていたことが確認された。

ま と め 今回の調査で、備中高松城は弥生時代以降の集落が形成される安定した微高地上に築かれていることが確認された。また、城郭の外周部にも堀が存在していたことが確認され、僅少な範囲の調査であったが備中高松城の構造を解明するための貴重な資料が得られた。



第1図 調査地点



第2図 堀



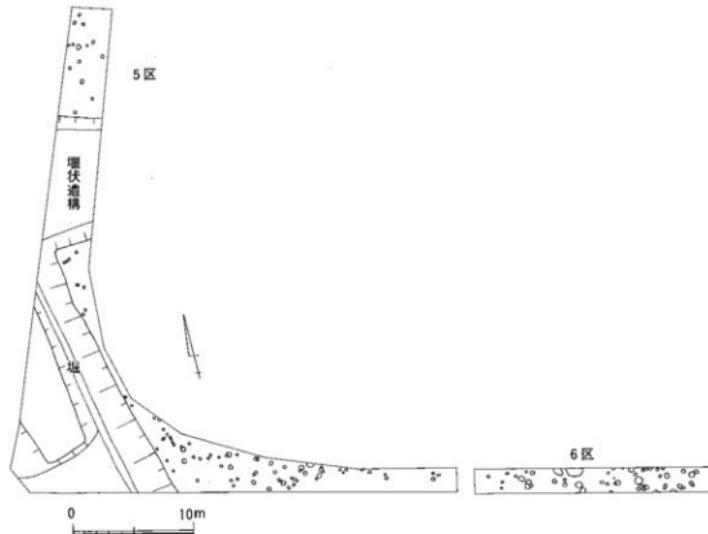
第3図 石室遺構



第4図 柱穴・井戸



第5図 調査区配置



第6図 5区・6区遺橋平面図

むな 宗形神社古墳

所在地 岡山市大窪193

調査原因 神社境内整備工事

時 代 古墳時代前期

調査期間 970707~970719

調査面積 10m²

担当者 乗岡実・安川満

位置と調査原因 大窪の集落に向かって張り出す丘陵の南端、標高30mほどの半独立丘の頂部にある。ここは海神を祀る宗形神社の境内で、墳丘はその本殿のすぐ背後にある。しかしこの古墳は、遺跡地図などには未記載であり、また地元の方々にとっても古墳としての認識はなかった。そうした状況のもとで境内整備の工事が着手され、墳丘の一部が掘削された結果、人骨を内蔵する箱式石棺が露出した。状況確認と保存を図るために、発掘調査を実施したものである。

調査の概要 今回の工事以前からの削平で墳端はかなり後退している。現況で判断すれば、直径15m足らず、高さ2mほどの円墳とみられるが、予想墳端付近にトレンチを設定できなかったため、周溝の有無などを合わせて未確定である。墳丘のほぼ中央には東西に長い箱式石棺があり、付近では削り出された地山の高まりの上にさらに厚さ60cmの盛土がある。箱式石棺の東小口とその上の蓋石は今回の工事によって動かされたが、内法は長さ190cmと復元できた。また、幅は50cmである。棺材の整形は入念で、内面には赤色顔料が塗られている。盗掘の痕跡はなく、棺内には頭位を違える二体分の人骨が良く残っていた。東枕の埋葬（女性）が古く、玉類11点と鏡片を副葬する。この玉類には硬玉の勾玉、ガラスの勾玉、碧玉の管玉（最大のもの長さ26mm）などを含み、一連の装身具をなしていたとみられる。鏡片は中形鏡（鏡式未確定）の紐の部分で、破断面を研磨し、布に包まれていた痕跡がある。西枕の埋葬（男性）には、斧・錘・刀子・鎌といった鉄製農工具が副葬されていた。4世紀後半から5世紀初めの古墳と考えられる。

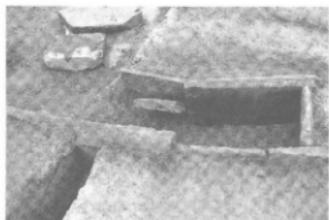
まとめ 大規模な前方後円墳をみない一宮地区の砂川流域にあって、小規模円墳を未盗掘の状態で確認した。中小首長の政治動向を考えるうえで重要なデータといえよう。また、入念な造りの箱式石棺の存在、男女合葬と副葬品目の割り振り、鏡片副葬のあり方など、提起する問題は大きい。



第1図 調査地点



第2図 墳丘と箱式石棺



第3図 箱式石棺



第4図 棺内の追葬人骨

たこお貝塚

所在地 岡山市妹尾字高尾3960-1、3961-1

調査原因 宅地造成

時代 弥生時代？、近世・近代

調査期間 970804

調査面積 1331m²

担当者 神谷正義・乗岡実

遺跡の概要 高尾貝塚は岡山市の南西部を占める妹尾地区にあって、低丘陵の南端、西向き斜面に立地する。1951年には、崖面の端に僅かに残っていた貝層部の発掘調査が実施された。貝殻はシジミを主体としてハイガイやカキが混ざるものであった。共伴する壺は重弧文・斜交子文を多用し、甕は口縁下の沈線が無いか少いなどの特徴をもち、弥生時代前期でも相当古い段階に位置づけられる。本貝塚は土器編年のうえでの標識遺跡として著名なものとなった⁽¹⁾。当該地では、このたび宅地造成の計画がもちらがあり、地番のうえでは報告文と一致しないものの、位置と状況から当時の発掘調査地が含まれて遺跡の一部が残っている可能性があるため、調査を実施した。



第1図 調査位置図

調査の概要 開発用地は、既に畠などの開墾のため丘陵側ほど大きな削平をうけており、その大半は現地表面に岩盤風化土が露出し、貝層やその他の遺構は残存し得ないことが容易に観察できた。いっぽう、斜面下方にあたる西と南の開発用地端付近には、土の堆積があって、3か所でハイガイ貝殻の散布が確認できた。調査はそうした個所に的を絞って7つのトレンチを設定した。

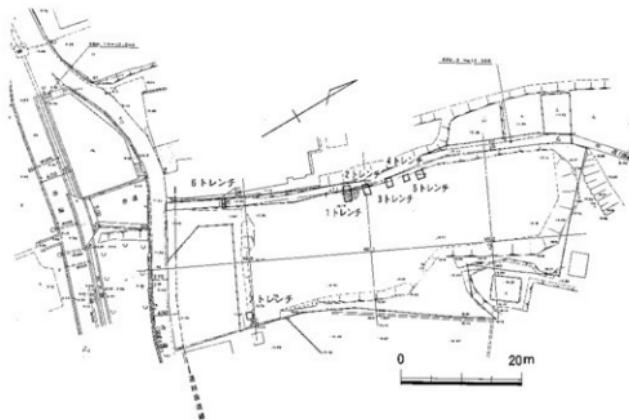
現地表に極めて粗な状態で貝殻が散布する中西部に設けた第1トレンチでは、隣の民家敷地の崖に向かって厚さ1m以上の土砂が風化岩盤の上に堆積する。この堆積土中では、弥生土器が確認できなくなく、その深い位置に近世瓦を含んでいる。したがって、ここでは近世以前の堆積土は存在しない。同じ状況は、その北に設けた第2~5の各トレンチでも確認できた。なお、付近の現地表で近現代の遺物に混じって、胎土と焼成から弥生時代前期の可能性がある土器細片2点を採集した。

南西部に設けた第6トレンチでは、やはり風化岩盤の上に2mほどの堆積土がある。ここでは現地表下10cmほどの位置に薄いが純粋なハイガイ（長辺3cm以下級のみ）の貝層が確認できた。しかしこの貝層は、近世・近代のものとみられる瓦や銅金具を含むだけでなく、民家との境界をなすブロック壁の前身石垣構築時とみられる掘り方を覆っている。貝層は新しい時期の小道の路面に堆積したものと判断された。

開発用地の南東隅でもハイガイの純粋な貝層（長辺2~4.5cm）が確認できたので、第7トレンチを設定した。このトレンチでは岩盤風化土上に厚さ80cmの堆積土があって、2枚の貝層を含んでいる。貝層には土器などを含まないが、最大10cmほどの厚さをもつ貝層は、近世・近代のものとみられる敷地境の低石垣の裏石材に密着して終わっている。このトレンチの堆積土全体が、石垣構築時の裏込土と判断された。

まとめ 確認できる貝層は總て近世・近代の堆積であった。貝種も一致せず、もし開発用地内に高尾貝塚の本体があったのであれば、弥生時代の貝層やその他の遺構は既に消滅したと判断される。

注1 鶴木義昌・高橋謙 1972 「岡山県高尾遺跡」『日本農耕文化の生成』日本考古学協会

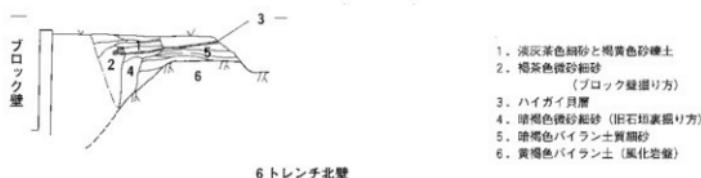


第2図 調査地全体図



1 トレンチ北壁

1. 暗黄灰色細微砂
2. 踏青灰褐色細微砂（含近世瓦）
3. 鮮黃褐色花崗岩質バイラン土
(風化岩盤)



6 トレンチ北壁

1. 淡灰茶色細砂と褐黃色砂礫土
2. 褐茶色微砂細砂
(ブロック壁掘り方)
3. ハイガイ貝層
4. 墓壇色微砂細砂（旧石垣裏掘り方）
5. 呕褐色バイラン土質細砂
6. 黄褐色バイラン土（風化岩盤）



第3図 土層断面図

つしまえどうこうほくちゅう 津島江道（岡北中）遺跡

所在地 岡山市津島東1丁目1-1

調査期間 970806~980227

調査原因 校舎建設

調査面積 587.5m²

時代 繩紋時代~

担当者 草原孝典

遺跡の概要 津島江道遺跡は、旭川の西岸の沖積平野部に位置する。付近には弥生時代前期初頭の集落遺跡である津島遺跡や、繩紋時代後期の集落遺跡である津島（岡大）遺跡などがある。当調査地区は、1996年度に調査した給食棟調査区の約50m南に位置している。当調査区と給食棟調査区の中間にあり1986年度に調査された校舎調査区では弥生時代から古墳時代にかけての遺構はそれほど多くないが、今回の調査区の南に位置する武道場建設時の試掘や、さらに南に位置する下水道の試掘の成果では厚い包含層と明確な基盤層が確認されている。津島江道遺跡は、遺構密度の高い地区とそうでない地区が幾つか複合して1つの遺跡を形成していると考えられる。当調査区は北と南にある遺構密集地の中間部、もしくは南の遺構密集地の北端に相当すると予想された。

調査の概要 検出できた遺構面は、弥生時代前期、弥生時代後期、古墳時代後期、飛鳥時代~平安時代である。遺物の量は、古墳時代後期、飛鳥時代に属するものが多い。

弥生時代前期の遺構面では、水田畦畔が若干検出された。水田層は調査区全体で認められる。遺物はごくわずかであるが、弥生時代前期の土器と突帯紋期の土器が出土している。

弥生時代後期の遺構面では、調査区の南端で後期前半の竪穴住居が1棟検出された。包含層からも該期の土器が比較的多く出土しており、後期の集落域は南側へ広がっているものと思われる。上層包含層への混入であったが、弥生時代後期後半の絵画土器が出土して注目される。この土器は口径9.2cmで、胴部下半は欠損している。口縁部内外面には指頭圧痕が明瞭で、胴部下半には刺突紋が不規則におされている。絵画のはかにも記号、あるいは絵画を極めて簡略化した線刻が口縁部外面や胴部上半に多数認められる。絵画は弓を射る人とその先端に鹿の頭、そして逆転した水鳥が表現されている。鹿の頭については、時期は下るが瀬戸町の陣場山遺跡の円筒埴輪にも共通する表現方法である。いずれにしても極めて簡略化されており、絵画か



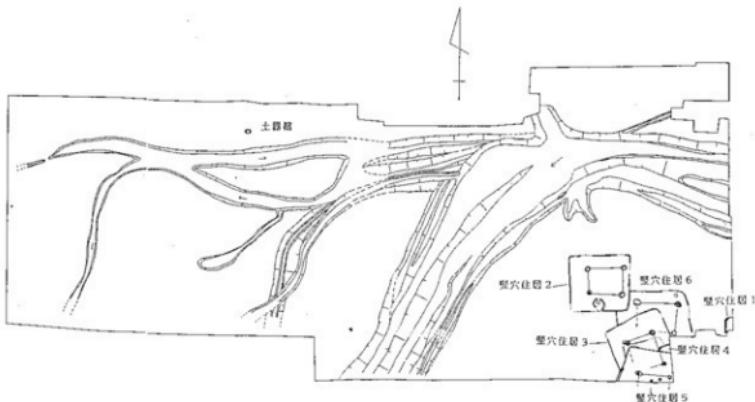
第1図 調査地点



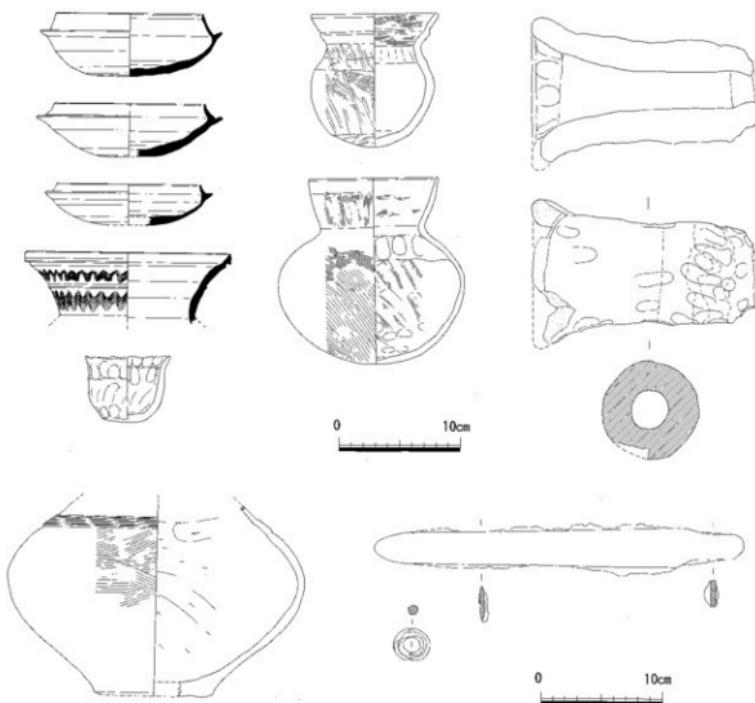
第2図 弥生・古墳時代遺構面（東半）



第3図 飛鳥時代の建物



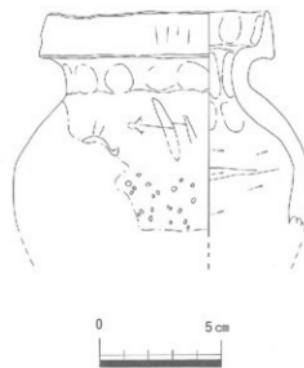
第4図 弥生時代後期～古墳時代後期の遺構



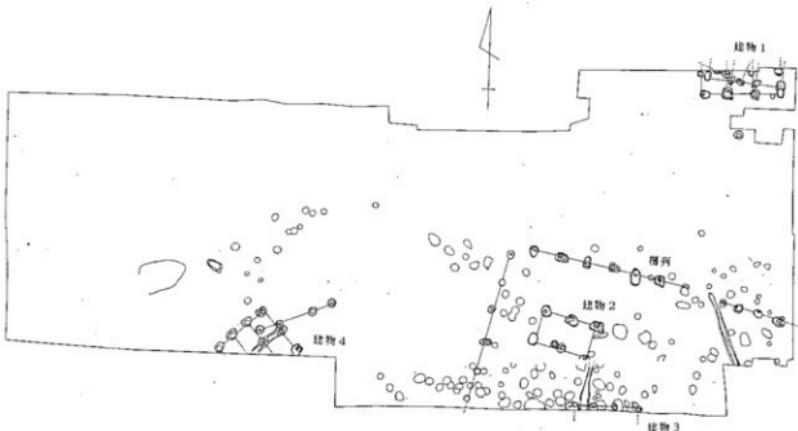
第5図 溝および弥生時代前期水田出土遺物



第6図 絵画土器写真



第7図 絵画土器実測図



第8図 飛鳥～奈良時代の遺構

ら記号へと移行する過渡的様相ととらえることができそうである。

古墳時代後期の遺構面では竪穴住居が5棟、大溝などが検出されており、遺物の量も多い。竪穴住居は切り合っており、調査区の南側には多数の住居跡が埋没しているものと予想される。出土した遺物の大半は土器であるが、なかには鉄剣、耳環などの集落遺跡では出土することの珍しいものもある。また、それほど多くはないが鉄滓やフイゴの羽口も出土した。

飛鳥時代から奈良時代の遺構面では、大小のピットが調査区の南半で密集して検出され、土器類が多く出土している。柱穴のうち建物としてまとまるものには、正方位を意識した建物と地形方向を意識した建物に大別されるようである。前者は調査区の北端と南端で検出されており、いずれも縦柱建物で、柱穴の掘方も方形に近い。給食棟調査区で検出した倉庫群が当調査区の地点まで広がっていることを示している可能性が高い。後者については調査区の南半で検出されている。明確な建物は1棟だけだが、横列を伴っており、一般的な集落の景観とは異なっている。調査区の南側には兵庫県の松野遺跡のような横列に囲まれた建物群が存在する可能性も推測される。

平安時代の遺構面では、柱穴列、不整形な土壤、溝などが検出された。遺構、遺物ともに極めて少ない。集落域としては縁辺に当たるものと思われる。ただ、検出された溝は地形に即しているが、柱穴列などは正方位を意識している。

平安時代以降は、耕作に関する溝が検出されただけである。おそらく中世以降は、序々に水田化されていったと考えられる。

まとめ 弥生時代から古墳時代における津島江道遺跡の様相を理解する貴重な資料が多くえられた。とくに古墳時代後期の津島江道遺跡が、幾つかの竪穴住居群によって構成されていることが明らかとなったのは、沖積平野の該期の集落遺跡の構造を考えるための貴重なデータになるものと思われる。また、建物の方向については、従来の調査成果と合わせると、7世紀ぐらいまでは様々な方向をとっているが、8世紀の段階で正方位を意識したものがでてくるといえそうである。ただし8世紀段階でも幾つかの方向をもつものがあり、8世紀のどの段階で正方位となったかについては、柱穴から出土する土器が少ないので、いまのところ特定できない。

にわ せ かわ さき 遺 跡

所 在 地 岡山市庭瀬字川崎434

調査原因 無線基地局建設

時 代 弥生時代～古墳時代

調査期間 970916～970917

調査面積 約100m²

担 当 者 神谷正義・高橋伸二・安川 満

遺跡の概要 調査地は足守川東岸、川入遺跡、倉敷市上東遺跡の存する山陽新幹線沿線から南に約800mの位置にある。今回の土木工事に伴う試掘調査により新たに発見された。一帯は弥生時代、古墳時代には足守川が「吉備穴海」に注ぐ河口付近にあたると思われる。

調査の概要 調査は基礎掘削のおよぶ約100m²に対して行った。遺構検出面は微高地基盤上であり、現耕土直下、海拔1m付近に存在する。包含層等は削平のためか存在しなかった。遺構はさほど密集している状況ではなく、性格不明の土坑、ピットを数基検出したのみである。出土遺物もごく少なく、土器片が若干出土したのみであるが、この時期觀から古墳時代初頭を中心とする遺構群と考えられる。



第1図 調査地点

にわ せ かわ さき 庭瀬川崎（吉備公民館）遺 跡

所 在 地 岡山市庭瀬字川崎420

調査原因 清化槽埋設

時 代 弥生時代～古墳時代

調査期間 971202

調査面積 62.4m²

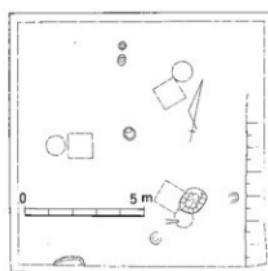
担 当 者 神谷正義・安川 満

遺跡の概要

無線基地局調査区の南約50mの地点で吉備公民館清化槽埋削に伴い調査を行った。近世と考えられる溝状遺構や砂層中から中世と思われる土器細片を検出したが、無線基地局調査区で検出したような微高地基盤やそれに相当する土層を検出することはできなかった。



第1図 調査区の位置



第2図 無線基地局調査区 (1/200)

つくり やま
造山第2号古墳

所在地 岡山市新庄下字神山1174-2
調査原因 遊歩道建設
時代 古墳時代

調査期間 971218~980305
調査面積 約160m²
担当者 安川 満

遺跡の概要 造山古墳は墳長約350mを測る全国第4位規模の巨大古墳であり、その南西一帯には陪塚といわれる中小の古墳が6基現存している。第2号古墳はその一基で、現状では一边約20mの方墳である。とくに、この古墳は造山古墳外帶の南西角に意図的に接して築かれているといわれている。また第2号墳の南東に迫る丘陵は端部が造山古墳前方部墳端の延長線上に揃えて加工されているようにも観察され、この線に主軸を平行させて第2号古墳が築かれたとみることもできる。

調査の概要 本古墳の隣接地で、造山古墳群を回遊するための歩道建設に際し、埴輪列が確認されたため、事業主体である岡山市觀光物産課などと協議のうえ、必要最低限の記録作業を行い、遊

歩道の設計を変更して現状保存を図ることとした。また、第2号古墳への遊歩道取り付き部に関しても、埴輪列と第2号古墳の関係追及、第2号古墳関連遺構の存在状況を確認すること目的に、幅0.8mのトレンチ（トレンチ1）を設定した。

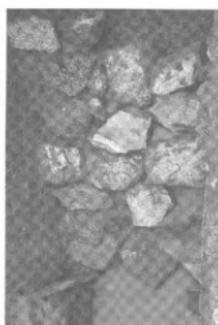
埴輪列は現状での第2号古墳丘端から約15mの位置で、墳丘ないしは丘陵斜面に平行に、長さ35mほどが検出された。構成する埴輪は全部で110本ほどあり、円筒埴輪、朝顔形埴輪、盾形埴輪がある。5本の円筒埴輪を抉んで朝顔形埴輪と盾形埴輪が交互に配されているように観察された。なお、盾形埴輪のうち一部は背の破片を含んでおり、少なくともその一部は盾持人埴輪と考えられる。埴輪列は溝状の掘り方に円筒部の2段目までを埋めている。また、幅70cm程の平坦面を抉んで埴輪列の外側（丘陵側）には、平行して幅1m、深さ30~40cmの溝がある。



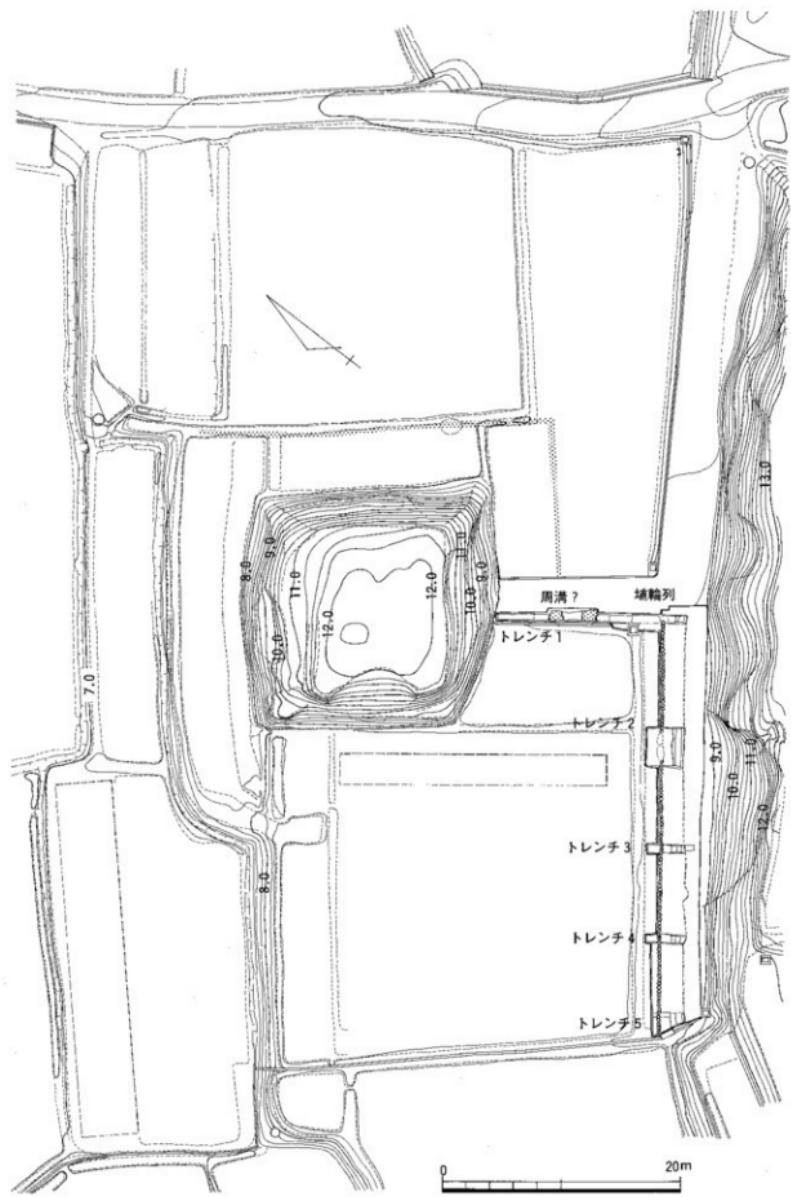
第1図 調査地点



第2図 検出埴輪列（東から）



第3図 周溝？葺石（埴輪列側）



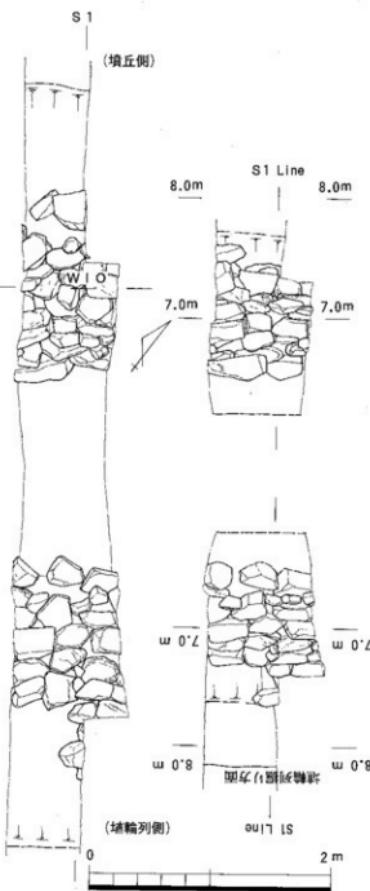
第4図 造山第2号古墳測量図 ($S = 1/400$)

トレンチ1では第2古墳現墳丘端から約4.5m外側で、周溝の一部とみられる溝を検出した。この溝は内外の斜面とも葺石が高さ約1m残存していた。葺石の確認上端は現地表からの深さ約2.5mの位置にあって、内外の葺石がおよぶ範囲は幅約4mである。この葺石は20cm大の角礫類を地山に直接石垣状に積んだもので、石材は多くが花崗岩のようである。溝内には2号古墳側から転落したと思える埴輪と葺石材が多量に含まれている。

埴輪は埴輪列のもの溝出土のものとともに同じ特徴をもち、同時期のものと判断される。検出した埴輪列の埴輪は円筒・朝顔・盾類のみであるが、周溝には蓋形なども含まれており、墳丘部と検出埴輪列とでは埴輪の器種構成が異なっている可能性がある。円筒埴輪の場合で、4段、高さ60cm程度、直径30cm弱と復元できる。また埴輪はすべて窓窯焼成と観察され、外面は二次調整がC種ヨコハケのものと、B種ヨコハケのものがあり、基底部は二次調整が省略されているものと、けずりを施すものがある。また、最下段のタガには押圧技法によるものが含まれる。こうした特徴から川西編年Ⅳ期後半のものと考えられる。

第2号古墳は現状では一辺約20mの方墳であるが、検出した溝が副溝である可能性や周囲の畝区画、墳丘の現状斜面にわずかながらも葺石が残存していることから、二段築成の一辺40m程度の方墳であった可能性が強い。埴輪列の性格に関しては、外側に溝が存在すること、第2号古墳墳丘の埴輪と同じ特徴を持つ埴輪で構成されることなどから、第2号古墳の外堤の端に並べられたものと理解するのが自然であろう。

しかし、埴輪列が調査範囲の外にどう続くのか、第2号古墳の墳丘が本来どのようなものであるのかなど問題が残される。



第5図 トレンチ1周溝 平面・立面図 (S=1/40)

岡山城二の丸（宇野自動車）遺構

所在地 岡山市内山下一丁目1-101
 調査原因 立体駐車場建設
 時代 中世末～近世

調査期間 97.11.12～97.12.05
 調査面積 1029.68m²
 担当者 乗岡実・安川満

遺跡の概要 調査地は純然たる市街地であるが岡山城二の丸の西端付近に相当する。この二の丸跡では、当調査地北隣の中国銀行本店用地をはじめ、岡山県庁増築用地、中国電力内山下変電所用地などで調査が行われ、16世紀末以降の上級武士の屋敷地跡が確認されている。

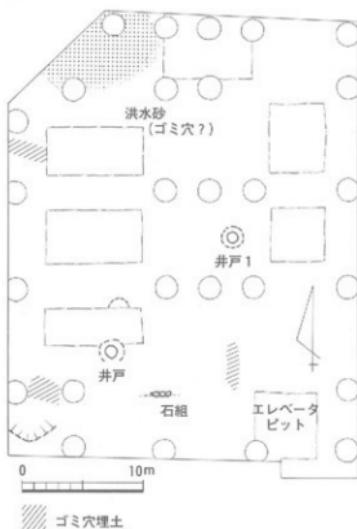
調査の概要と確認遺構 当該地は北隣の中国銀行の発掘成果から、既存建物による擾乱が予想されるものの、深部では中世末以降の生活面が重層的に残存する可能性が高いと判断された。協議の結果、当該工事に際しては近世以前の生活面に掘削が及ばないよう設計変更するとともに、掘削がおよぶ上層部に関しては基礎工事に伴って調査を実施することとなった。既存建物による擾乱と調査対象範囲の限定性から、十分に遺構の把握をなし得なかったが、ゴミ穴、井戸などを確認した。

北西側では1654年（承応3）の大洪水によると考えられる洪水砂が厚く堆積しており、その下層ではゴミ穴類が複数して存在していると判断された。いっぽう、南西側は洪水砂の堆積が薄いか、あるいは認められず、土壌基礎と考えられる石組、井戸2、ゴミ穴などを確認した。用地の半ばでは井戸1を確認した。直径60cmほどの底のない桶を段重ねして井筒とするもので、内部に多量の瓦が投棄されていた。承応の洪水砂はこの井戸の埋土のさらに上部に堆積する。なお、用地の南東隅はエレベーターピットの予定地にあたるため、中世末及びそれ以前の土層まで調査対象としたが、遺構は検出されなかつた。

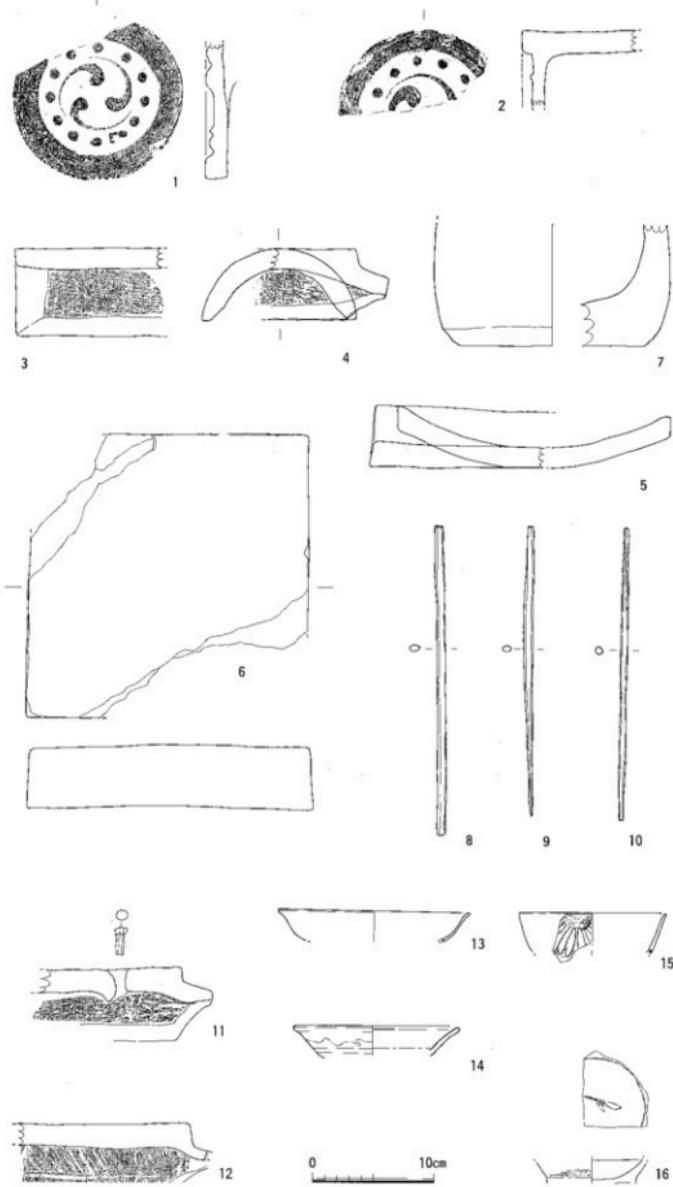
当調査地点は、洪水砂以前においては、北西半部が庭などのあき地、南東半部が井戸などの存在する屋外生活の場と考えられる。1632年（寛永9）の池田家国替えの前後を示す『岡山古図』（岡山大学池田家文庫）では、北半部が池田忠雄期には寺嶋四郎三衛門、池田光政期には日置



第1図 位置図



第2図 掘出遺構



第3図 出土遺物

主殿、南半部が忠雄期には荒木又右衛門加勢の伊賀越しの仇討ちの当事者、渡辺数馬の屋敷地となっている。調査区南寄りで確認した東西に延びる石組は、こうした南北の屋敷地を限る土壙跡の可能性が高い。

出土遺物 1～7は井戸1の井筒埋土から出土した。1は軒丸瓦の瓦頭部で、文様は左巻き三巴に11個の珠文を配し、残り珠文1個分の位置には把手付きの鉤⁽¹⁾を表現する。岡山城本丸中の段で出土した軒丸瓦704⁽²⁾と同様で、範例の進行から本資料の製作が先行することが判る。2は珠文数12個程度とみられる軒丸瓦で、内面のコビキ痕⁽³⁾はB、瓦当背後の丸瓦部はさほどくびれないが、瓦当面に対する文様面は深い。3は丸瓦で内面はコビキB痕に粗い布目、外側の炭素吸着は良好である。4は丸瓦尾部で、やはり内面はコビキB痕に粗い布目である。5は平瓦で、凹面は丁寧な横ナデ、凸面はケズリ的な粗い縱ナデ、両面ともコビキA痕が観察できる。6は瓦質の瓶で、各面とも丁寧なナデを施す。1～6の瓦類は、総じて胎土が細かく、断面の色調は芯が暗灰色、表皮が灰色と成層構造をなす。本丸中の段の発掘成果による縦年観に照らせば、5は第Ⅱ期の16世紀末、その他は第V期前葉の古いところ、すなわち17世紀第

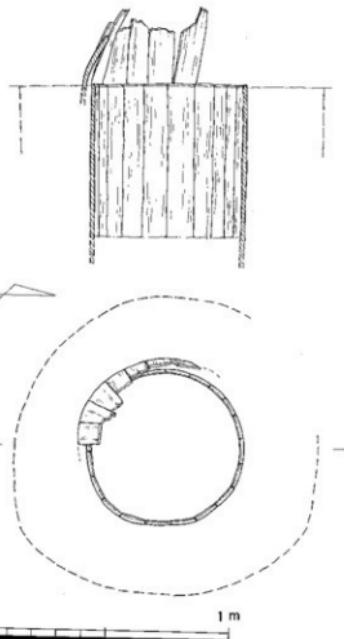
2四半期の製作とみられ、承応の洪水以前に埋まつたとの層位的理諭と一致する。7は底径15cmほどの埴壺で、特に外側は強熱をうけて暗緑～暗赤色の釉状にガラス化したり、器面があはた状に荒れて灰色を呈している。内面はナデ調整で黒色を呈すが、溶解付着物は観察できない。胎土には1～3mm大の石英粒を頻繁に含む。武家屋敷地内で金属器生産が行われたのであろうか。

8～12は北西のゴミ穴から出土した。箸は杉材で、使い捨て的に大量投棄されたものの一部である。11は内面コビキBで釘穴に木釘が残っていた。12はコビキA。

13以降の陶磁器は帰属遺構が特定できない。13は16世紀末の明の白磁皿、14は17世紀初めの唐津の緑溝皿、15・16は肥前の染付碗で、16は幕末の製品である。

注

- (1) 小西通雄氏のご教示によれば、瓦錠との共存状況から、江戸時代前半から中期にあった備前国上道郡一日村（岡山市一日市）の瓦師が、珠文部に鉤手を配する特徴的な三巴紋軒丸瓦を作っていた可能性が強く、彼らが鉤手紋を商標的に用いた形跡がある。本資料は一日市の瓦師の製品、もしくは彼らへと続く岡山城下の瓦師の製品であろう。
- (2) 岡山市教育委員会 1997 「岡山城本丸中の段発掘調査報告」
- (3) 森田克行 1984 「IV 舟丸」『振津 高根城』高根市教育委員会



第4図 井戸1

雄町遺跡

所在地 岡山市雄町375-1
調査原因 集合住宅建設
時代 古墳時代初頭

調査期間 980205・09
調査面積 23m²
担当者 扇崎由

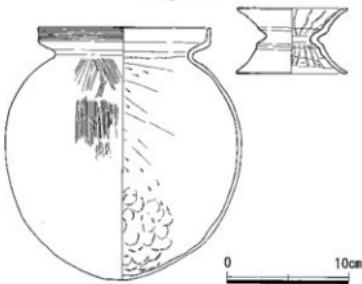
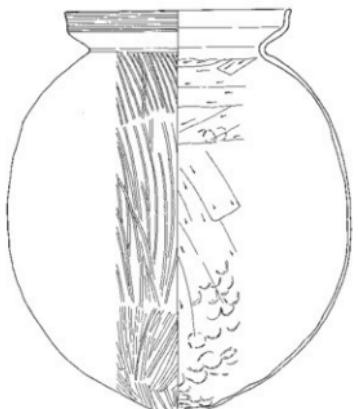
遺跡の概要 山陽新幹線建設に伴う調査による雄町の第4微高地の北側にある。その際の調査では、弥生中期の土壙墓群や竪穴住居・柱穴、古墳時代前期の竪穴住居、古代の条里制遺構などが確認されている。また周辺での近年の調査成果に照らして、本調査地点では微高地基盤面は大きく削平を受けているものの、弥生から古墳時代の遺構の存在が予想された。

調査の概要 調査は2基の浄化槽設置箇所を対象とした。浄化槽1はすでに掘削済みであったため掘り底面での遺構確認と周囲の壁面の調査とならざるを得なかった。掘り底面ではすでに基盤面から80cm掘り込まれており、柱穴のような浅い遺構を確認する事は不可能で、井戸や貯藏穴といったよほど底の深い遺構しか確認できない状況であったが、そういう遺構も検出されなかった。壁面調査では旧耕土下に微高地基盤層が存在し、東壁で時期は不明ながらそれを掘り込む柱穴を3つ確認した。南端部では基盤面の上に包含層が厚くなっている、基盤面は南に下がっている。

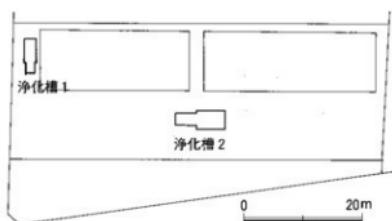
浄化槽2では、旧耕土直下に古墳時代初頭の土器小片や焼土塊を含む包含層が約10cm堆積している。遺構は包含層下の基盤面で確認でき、柱穴5・焼土ブロック3・土坑1が検出された。小面積のため確認は得られないが、柱穴のうち4基は2基ずつがそれぞれ同様に重なっており、西側に展開する建て替えが行われた建物の一部とも考えられる。その場合の柱間は165cmとなる。これら柱穴には土器が伴わず、時期は不明である。土坑1は検出面での直径160cm、底径80cm、深さ120cmで、埋土上層から甕や鼓形器台などの土器片とともに炭が多く出土した。底は地下水昇時には湧水する事も考えられる中砂・粗砂層であるが、井戸にみられる滞水面付近の壁面の崩落によるオーバーハングもみられないことから、貯蔵穴と考えられる。



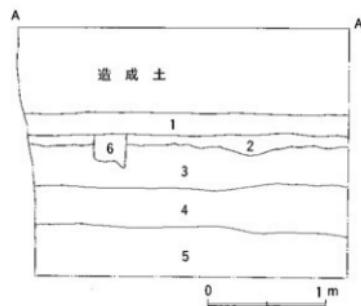
第1図 調査位置図



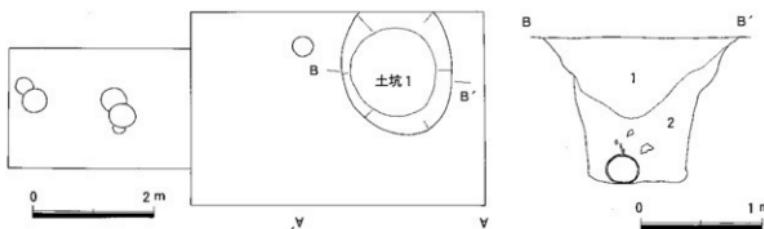
第2図 浄化槽2 土坑1 出土物



第3図 調査区位置図



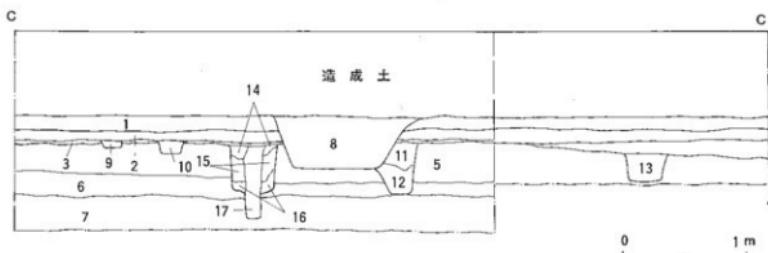
第4図 净化槽2 南壁土層図



第5図 净化槽2 全体図

1. 暗褐色粘質微砂、土器片・炭化物多い
2. 暗灰黄色シルト

第6図 土坑1 土層図



- | | | |
|-------------------|-------------|-----------------|
| 1. 暗青灰色微砂 | 8. 淡灰褐色微砂 | 15. 淡黄色微砂 |
| 2. 淡灰黄色粘質微砂 | 9. 暗灰色微砂 | 16. 黄灰色微砂 |
| 3. 淡灰橙色微砂 | 10. 暗灰色微砂 | 17. 暗灰色微砂 (柱重跡) |
| 4. 淡灰褐色粘質微砂 (包含層) | 11. 黄褐色粘質微砂 | |
| 5. 暗黄白色微砂・中砂 | 12. 暗灰色微砂 | |
| 6. 暗灰色細粉・マンガン沈着 | 13. 暗灰色粘質微砂 | |
| 7. 淡灰黄色中砂 | 14. 明黄色微砂 | |

第7図 净化槽1 東壁土層図

かね もと 兼 基 遺 跡

所在地 岡山市兼基89-1, 89-2
調査原因 マンション建設
時代 弥生時代中期

調査期間 980225~980304
調査面積 88.2m²
担当者 神谷 正義・扇崎 由

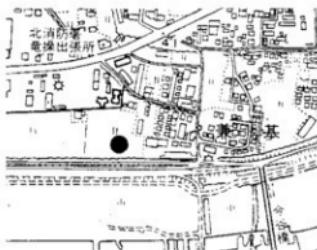
遺跡の概要 本調査地点は百間川堤防のすぐ北側で、百間川兼基遺跡・今谷遺跡の北西には接している。百間川改修に伴う調査では弥生中期の住居・掘立柱建物・ガラス滓を含む土坑・後期の溝・住居・掘立柱建物、後期末の水田、古墳前期後半の掘立柱建物が確認され、一つの微高地での各小時期による居住域の移動が明らかにされている。

調査の概要 調査は深くまで掘削の及ぶ浄化槽部分とエレベータピット部分を対象とした。

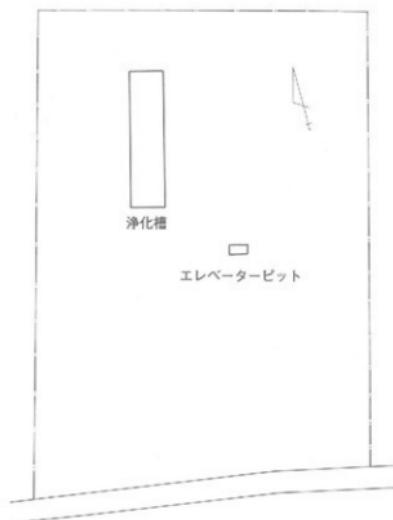
浄化槽部では、G L - 80cmで弥生終末と推定される洪水平砂層（7層）が存在する。また、8層が弥生中期菰池式から前山Ⅱ式の遺物包含層に11層が菰池式の遺物包含層にあたり、9層と12層が基盤面で同時期の柱穴や土坑・溝などを検出している。10層はグライ化が著しく、9層面で検出した遺構のうち深さ10cmに満たない土坑や溝以外の遺構の底は短時日の調査では判断しづらい状態であり、このためいくつかの柱穴や土坑では掘り上げ不足のため12層面でも検出する結果となった。9層面、12層面で検出した柱穴はいずれも建物組み合わせはつかめていない。

エレベータピット部では、平面で確認した柱穴3基と壁面で確認した土坑2基があるにすぎない。出土物は土器小片がわずかしかないが、浄化槽部分と同時期とみてよからう。なお、現状G Lはおよそ+3.5mである。

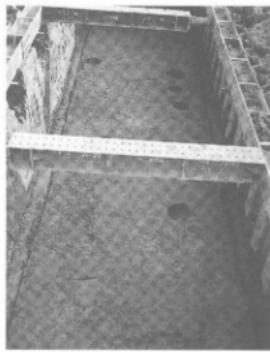
まとめ 今回の調査地は小面積ではあるが、住居址がみられず柱穴や土坑で構成されており、百間川兼基遺跡東苗代調査区北部や百間川今谷遺跡大地調査区の状況に近いと考えられる。



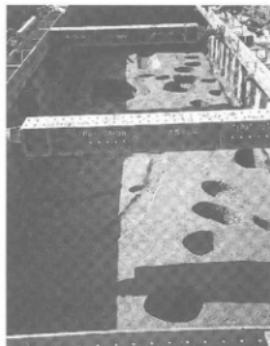
第1図 調査地位位置図



第2図 調査区配置図



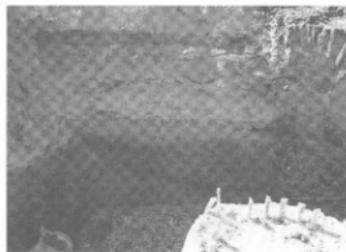
第3図 浄水槽 12層面（北から）



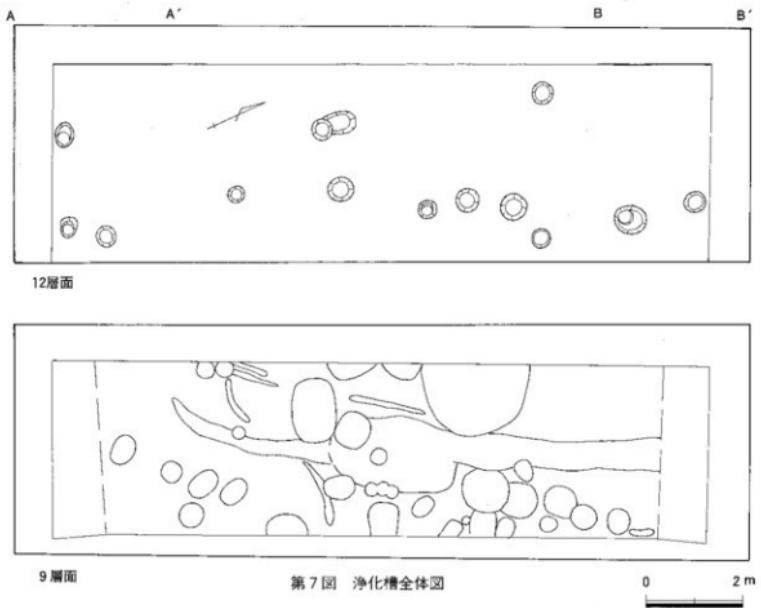
第4図 浄化槽 9層面（北から）



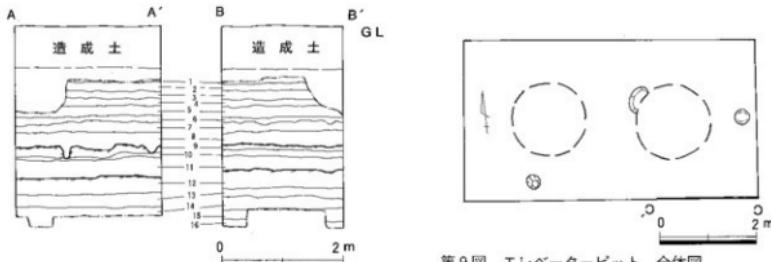
第5図 エレベーター・ピット全景



第6図 エレベーター・ピット南壁

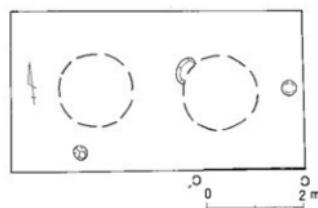


第7図 淨化槽全体図



1. 灰黃褐色細砂・微砂
 2. 淡黃褐色粘質微砂
 - 下部に漂砂（洪水砂）あり
 3. 淡灰褐色シルト
 4. 灰褐色粘質微砂
 5. 灰白色粘質シルト
 6. 反褐色粘質細砂
 - 漂砂有片含む
 7. 褐黃色細砂
 - （洪水砂、生糞？）
 8. 茶褐色細砂
 - 生糞中間包含層
9. 明黄色細砂
 10. 明灰青褐色シルト・微砂
 - 基盤
 11. 黄褐色シルト
 - 底生中耕土層含む
 12. 暗灰褐色粘質微砂・シルト
 - 基盤
 13. 暗青褐色シルト・微砂
 14. 青灰色シルト・微砂
 15. 黄褐色シルト
 16. 青灰色細砂

第8図 淨化槽土層図



第9図 エレベーターピット 全体図

1. 深青褐色細砂
 2. 灰色微砂
 3. 灰青褐色粘質微砂
 4. 灰褐色粘質微砂
 5. 灰(青)色粘質微砂
 6. 灰(青)色粘質微砂
 7. 青褐色粘質微砂
 8. 灰褐色微砂
9. 黑灰褐色シルト・微砂
 10. 黑灰褐色シルト
 11. 灰褐色粘質微砂
 12. 黑灰褐色シルト・微砂
 13. 黑灰褐色シルト
 14. 黑灰褐色シルト・微砂
 15. 青灰褐色粘質微砂
 16. 青灰褐色シルト・微砂
 17. 青灰褐色粘質微砂
 18. 青灰褐色シルト・微砂
 - 基盤

第10図 エレベーターピット土層図

おかやまじょうほんまるしただん 岡山城本丸下の段

所在地 岡山市丸の内

調査期間 971125～980331

調査原因 史跡整備

調査面積 850m²

時代 近世

担当者 乗岡 実

遺跡の概要 近世城郭としての岡山城の基本構造を成したのは宇喜多秀家で、慶長2年（1597）に一応の完成をみたが、以後の城主である小早川秀秋や池田氏も整備改造を行った。本丸は旭川の西岸にあり、天守のある本段、西に一段下がった中の段、それを取り巻く下の段からなり、国指定史跡「岡山城跡」の中核部をなす。本丸の史跡整備を目指しての発掘調査は、4か年度に渡った中の段の完了をうけ、下の段に着手した。



第1図 位置図

調査の概要 対象地は、北から東側の旭川べり、すなわち掘手である。

六十一雁木門の調査区では、絵図とよく一致する位置と内容で門の礎石や階段・敷石、それに排水溝（豊島石くり貫き）などが検出された。またその下層には雁木門の前身の階段と排水溝（花崗岩石組）が埋め込まれており、さらに門脇の袖石垣自身が楔形の石組を切っていることが確認された。すなわち宇喜多秀家段階では未だこの袖石垣がなく、明治維新まであった雁木門はそれより少なくとも2段階は遅れる構造となる。雁木門の前では、割石積みの井戸が絵図通りに検出されたが、位置と層位を別にして素堀井戸を確認した。その埋土には、本段御殿に由来すると思われる、膨大量の土師質皿や瓦のほか、銅・スズキ・ハマグリなどの食物残滓を含んでおり、17世紀第1四半期に埋められたことが判る。このほか川に沿う多門櫓の橹台石垣が、宇喜多期とみられる瓦を含む造成土の上に構築されていて、より新しいものと判断された。

雁木門の南の坂下門の調査区では、現地表下3mあまりで、近代になって埋め込まれた門櫓や門扉に続く階段を確認した。階段脇で本段石垣を擁護する石垣も5mもの高さをもっている。

天守台北側の調査区では、岩盤に固定された高石垣の根石を確認した。この石垣は自然丘の崖地形に背後をもたせている公算が強い。

馬場口門の調査区では、門の通路面の漆喰や排水溝、番所の壁が乘る石組が残っていた。



第2図 六十一雁木門の礎石（左側）と先行する階段・排水溝



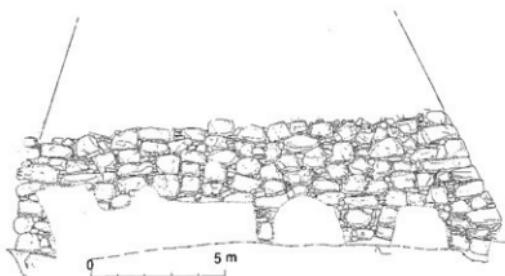
第3図 坂下門の階段



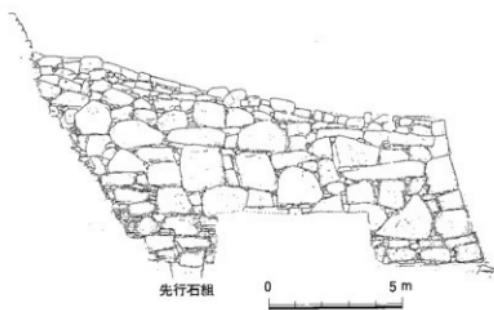
第4図 天守台石垣の隅角基部



第5図 六十一階木門・坂下門調査区



第6図 天守台の北西面石垣



第7図 六十一雁木門の袖石垣の東面



播磨系軒平
(姫路市心光寺例と同范か)
(前池田期に流用)



金箔おし軒平
(宇喜多秀家期)



池田家家紋
アゲハ蝶文軒丸
(江戸後期)

0 10cm



金箔おし桐文軒丸
(宇喜多秀家期)



同上

第8図 六十一雁木門調査区の出土瓦

II. 埋蔵文化財関連の協議と調整

岡山市は1997年1月から中核市となり、種々の権限が委譲されるようになった。その結果、第98条に基づく発掘調査の通知が報告でよいとされ、埋蔵文化財認定の事務処理が新たに譲せられるようになった。

そのほかは例年のとおり。日常業務として、開発行為事前指導時及び建築確認申請時による埋蔵文化財の存在状況に関する助言、及びその内容・協議次第で立会・確認調査・試掘調査・設計変更等の指導を行い、最後の手段として発掘調査を計画・実施する。

1997（平成9）年度は、建築確認申請時に249件の相談があった。そのうち立会109件・試掘21件に対応した。なお、本年度から「埋蔵文化財試掘調査・確認調査票」の提出が求められるようになった。該当調査は2件である。

岡山市教育委員会で取り扱った埋蔵文化財発掘の届出・通知等（直管分を含む）の一覧は以下のとおりである。一覧は文化課受付日において年度の区分けをしている。

埋蔵文化財発掘の報告（第98条の2）	12件
埋蔵文化財発掘の届出（第57条の3）	26件
埋蔵文化財発掘の届出（第57条の1）	4件
埋蔵文化財発掘の届出（第57条の2）	22件
指定史跡の現状変更許可の通知（第80条）	1件
遺跡発見の届出・通知（第57条の5・6）	8件
埋蔵文化財試掘調査・確認調査報告	2件
埋蔵文化財認定通知	18件

このほか、市域内での発掘調査として以下の遺跡がある。詳細は『岡山県埋蔵文化財報告28』（岡山県教育委員会1998年）に紹介されている。

- ・百間川米田遺跡（旭川放水路河川改修に伴う発掘調査）
- ・田益田中遺跡（国立岡山病院建設に伴う発掘調査）
- ・田益田中遺跡（笠ヶ瀬川調整池建設に伴う発掘調査）
- ・原尾島遺跡（雇用促進住宅岡山宿舎建設に伴う発掘調査）
- ・藤原遺跡（岡山陸運支局検査場改修事業に伴う発掘調査）
- ・天瀬遺跡（岡南共同溝建設に伴う発掘調査）
- ・北方地蔵遺跡・中溝遺跡・中井散布地（都市計画道路万成国富線建設に伴う発掘調査）
- ・津寺一軒家遺跡（主要地方道箕島高松線改良工事に伴う発掘調査）
- ・高松沼田遺跡（県立高松農業高校産業教育実習棟改築に伴う発掘調査）

埋蔵文化財発掘の通知（第98条の2）

遺跡の名称及び種類	所在地	面積	工事の目的	主体者	工事期間	時代
猿山遺跡・城館跡・その他の墓 1580-1	岡山市下足守1578、1580、 1580-1	600m ²	開発事業（農業開拓）	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970527 ～980331	中世
庭瀬川跡・跡地 数布	岡山市庭瀬字川崎434番	57m ²	無線基地局	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970609 ～970630	弥生・古墳
中尾遺跡 数布	岡山市中尾字辻細1外116番	84553.5m ²	開発事業に伴う宅地造成	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970603 ～980331	
備中高松城跡 数布道・城館跡	岡山市高松641-1外14番	1200m ²	道路	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970609 ～980331	弥生～近世
津島遺跡 集落跡・生産遺跡	岡山市いすみ町内地内	133.3m ²	下水道管布設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970610 ～9705水	縄文～中世
宗形神社古墳古	岡山市大庭193	10m ²	その他開発（境内地の整備）	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970709 ～970731	古墳
高尾貝塚	岡山市峰尾字高尾3960-1、 3961-1、同地先市道	1330.74m ²	宅地造成	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970801 ～970831	弥生
津島江道跡 集落跡・官衙跡	岡山市津島東一丁目1番1号	587.5m ²	学校建設	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	970805 ～980331	縄文～中世
庭瀬川跡（吉備公）遺跡 数布	岡山市庭瀬字川崎420番	62.4m ²	その他建物（浄化槽）	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	971201 ～971205	弥生
津島遺跡 数布	岡山市津島中二丁目818番地 先、津島中三丁目1470番地	153.8m ²	その他開発（下水道雨水 管埋設）	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	971222 ～980331	弥生
造山古墳附跡古墳	岡山市新庄下字神山1174-2	160m ²	その他開発（歩道整備）	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	971118 ～980331	古墳
新道遺跡	岡山市新道1番地	990m ²	学校建設（ブルーム新築）	岡山市教育委員会 教育長 戸村彰季	980302 ～990331	古墳・中世

埋蔵文化財発掘の届出（第57条）

遺跡の名称及び種類	所在地	面積	工事の目的	主体者	工事期間	指導と時代
朝峯貝塚	岡山市津島東三丁目2841-3外 2番	273.74m ²	道路	岡山市理大町1-1 学校法人加計学園岡山理科大学 学長 加計 勉	970730 ～971231	発掘調査 縄文
施田遺跡（包含層） 集落跡	岡山市施田町二丁目5番1号	841m ²	学校	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	990119 ～990918	発掘調査 縄文～中世
津島岡大遺跡 集落跡	岡山市津島中二丁目1番1号	16m ²	岡山大学福井附属（南） 新宮に伴うポンプ槽取設 工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	980406 ～980417	発掘調査 縄文～近世
津島東三丁目遺跡 数布	岡山市津島東三丁目2656-14	約400m ²	学校施設建設	岡山市理大町1-1 学校法人加計学園 理事長 加計 勉	980420 ～980430	発掘調査 古墳

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の2）

遺跡の名稱類	所在地	面積	工事の目的	主 体 者	工 事 期 間	指導者と時代
岡山城二の丸遺構 城館	岡山市内山下一丁目1-101 庭6筆	1029.68m ²	駐車場建設	岡山市表町二丁目3番18号 宇野不動産株式会社 取締役社長 宇野仁治	970701 ~980228	柴田調査 中垂・江戸
中尾遺跡 敷地	岡山市中尾字辻畠1外118筆	84553.5m ²	団地造成工事	岡山市神田二丁目1番25号 ライフス株式会社 代表取締役 大塚祥文	970401 ~990430	発掘調査 不明
敷地	岡山市広瀬町399-2、399-3	792.21m ²	その他建物（事務所・飲食店）	岡山市表町1-1 島本商店株式会社 代表取締役 島本信夫	970715 ~9802末	工事立会 弥生・中世
朝霞鼻貝塚	岡山市津島東三丁目2641-3外 3筆	273.74m ²	道路	岡山市押大町1-1 守谷人法加引学園高専大学 学長 加志道	970830 ~980331	発掘調査 純文
高尾貝塚	岡山市妹尾字高尾3960-1、 3961-1、岡地先市道	1330.74m ²	宅地造成	岡山市西高田町9-2 浜谷市開発有限会社 代表取締役 浜谷貴史	970804 ~970910	確認調査 弥生
西山城二の丸遺構 城館	岡山市内山下一丁目1-101 他6筆	1029.6m ²	その他建物（駐車場）	岡山市表町二丁目3番18号 宇野不動産株式会社 取締役社長 宇野仁治	971001 ~980430	工事立会 中世・近世
南方遺跡 集落	岡山市南方一丁目8-117、 118、119、120	485.49m ²	その他建物（事務所）	岡山市南方一丁目8番29号 岡山市復土会 会長 佐々木 廉	971101 ~980930	工事立会 弥生
津島江道遺跡 集落跡・生產遺跡	岡山市津島東一丁目1189-15	263m ²	その他建物（共同住宅）	岡山市北方1-6-7 海野芳子	971030 ~980331	工事立会 弥生・中世
豪基遺跡 集落	岡山市豪基系81-1-89-2	531.18m ²	その他建物（共同住宅）	岡山市赤田94-1 (南)ベンチマーク 代表取締役 小倉俊彦	971050 ~9810末	工事立会 弥生
赤田遺跡 集落・寺社跡	岡山市赤田91-1、109-3、 109-5、109-6の一部	754.41m ²	その他建物（共同住宅）	岡山市赤田132 松木千隼	971001 ~9801末	工事立会 弥生・平安
津島遺跡 集落跡・生產遺跡	岡山市学南町二丁目795-4	750.45m ²	その他建物（共同住宅）	岡山市島田町一丁目5-12 岸本 勉	970916 ~980301	工事立会 弥生
星町遺跡 敷地	岡山市勝町375番1	1451.04m ²	その他建物（共同住宅）	岡山市星町356番地 本宮義廣	971115 ~980331	工事立会 弥生
小山遺跡 敷地・集落跡	岡山市小山字櫛端9番5外1 5筆、字波り312番1外8筆	8914.85m ²	宅地造成	岡山市古傳津1242番地 吉田謙コンクリート株式会社 代表取締役 片岡長志	9712下旬 ~980531	工事立会 弥生・中世
南方遺跡 敷地	岡山市四條町姫先	226.2m ²	電線埋設工事	岡山市青江230番地の1 中国電力株式会社岡山営業所 所長 織田宣武	980201 ~980331	工事立会 弥生・古代
備前国庁跡 官衙	岡山市西国府市場字南國長56番 地の1、56番地の11	1138.26m ²	宅地造成	岡山市門田屋敷、丁目2番17号 株式会社はなはう 代表取締役 平賀弘司	980115 ~980215	慎正工事 古墳・平安
国府遺跡 官衙	岡山市中井326-1、331	977.93m ²	住宅	岡山市内山下1-10-16 寺崎辰久	980105- 970731	工事立会 奈良・中世
立傳津福藤部遺跡 敷地	岡山市吉備津字福藤部 1904-5・26、1907-1・8	2353.42m ²	その他建物（集合住宅）	岡山市吉備津1684番地の4 株式会社千田組 代表取締役 林本義久	9803末 ~9812末	工事立会 古墳・中世
南方遺跡 その他の遺跡（河）	岡山市邑野町5-101	3158.16m ²	その他建物（集合住宅）	高松市御殿町7番12 穴吹興産株式会社 代表取締役 穴吹忠嗣	980301 ~990630	工事立会 平安・中世
赤田西遺跡 敷地	岡山市清水271-2	887.54m ²	その他建物（銀行の支店）	岡山市丸の内一丁目15番20号 株式会社中国銀行 代表取締役 植木保昭	9803初日 ~980831	工事立会 中世
雄町遺跡 敷地	岡山市雄町383番1	1047.22m ²	その他建物（共同住宅2 棟）	岡山市雄町356番地 本宮義廣	980415 ~980831	工事立会 弥生
政治山城跡 館	岡山市足守字天下惣門ノ内 3034	228.66m ²	その他の開発（第1電気 通信事業無線局）	広島市中区胡町4番21号 中国セラーラ電話株式会社 取締役会長 吉川 昭	980401 ~980731	工事立会 中世・近世
山神遺跡 敷地	岡山市・宮字井之尾792番	1202.06m ²	工場	岡山県野市八浜町見石76番地 株式会社タココボレーション 代表取締役 木下式英	980315 ~980731	工事立会 弥生・中世

埋蔵文化財発掘の通知（第57条の3）

遺跡の名稱及び種類	所在地	面積	工事の目的	主 体 者	工 事 期 間	指 指 時 代
津島（岡人）遺跡 その他の遺跡	岡山市津島福居一丁目2074-3	45.06m ²	雨水管埋設工事	岡山市長 安宅敬祐	970520 ～970730	工事立会 弥生～平安
田益遺跡 敷地		99.83m ²	岡山市上下水道配水管整備 計画による配水管埋設工事		9701101 ～971219	工事立会
津島福居遺跡 活用	岡山市津島福居一丁目、津島本町	281.64m ²	下水道埋設工事	岡山市長 安宅敬祐	9706末 ～9803末	工事立会 弥生～中世
津島江道遺跡 集落跡・生産遺跡	岡山市津島東一丁目1番1号	587.5m ²	学校校舎建設	岡山市長 安宅敬祐	980601 ～990331	発掘調査 縄文～中世
朝夜鼻遺跡 敷地	岡山市津島東三丁目、四丁目	270m ²	用水の蓋かけ、渠道整備	岡山市長 安宅敬祐	970720 ～970930	工事立会 縄文
上伊福遺跡 敷地	岡山市伊福町二丁目10-17地先 ～伊福町一丁目23-13地先	257.16m ²	岡山市上下水道配水管整備 計画による配水管埋設工事	岡山市農田町二丁目1番1号 岡山市上下水道事業管理者 水道局長 進藤嘉昭	9709末 ～9801末	工事立会 弥生
田益遺跡 敷地	岡山市田益田字岡崎	75.03m ²	岡山市上下水道配水管整備 計画による配水管埋設工事	岡山市上下水道事業管理者 水道局長 進藤嘉昭	9708末 ～970930	工事立会 縄文～古墳
高田遺跡 敷地	岡山市恵爪288番地	680m ²	道路改修	岡山市長 安宅敬祐	9710中日 ～980331	工事立会 弥生
吉備津宮内遺跡 集落	岡山市吉備津1550番地	550m ²	道路改修	岡山市長 安宅敬祐	9710中日 ～980331	工事立会 中世
小山馬籠遺跡 敷地	岡山市小山226番地	100m ²	農業開闢(道路・用水路)	岡山市長 安宅敬祐	9710初日 ～980331	工事立会 弥生～中世
津島遺跡 敷地	岡山市津島中二丁目818番地 先、津島中三丁目1479番地	153.8m ²	その他の開発(下水道・ 水管埋設)	岡山市長 安宅敬祐	9712初旬 ～990326	発掘調査 弥生
庭園川崎遺跡 敷地	岡山市庭園字川崎420番	62.4m ²	その他建物(浄化槽)	岡山市長 安宅敬祐	9711上旬 ～980331	発掘調査 弥生
津島遺跡 敷地	岡山市学南町一丁目2～4、 学南町二丁目1	約170m ²	その他の開発(下水道)	岡山市長 安宅敬祐	9712初旬 ～980331	工事立会 弥生～中世
鹿田遺跡(包含層) 集落	岡山市鹿田町一丁目5番1号	10m ²	その他建物(病院)	岡山市済為中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	971222 ～972226	借重工事 弥生～中世
鹿田遺跡(包含層) 集落	岡山市鹿田町二丁目5番1号	15m ²	学校	岡山市済為中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	980105 ～980130	立会 縄文～中世
鹿田遺跡(包含層) 集落	岡山市鹿田町二丁目5番1号	581m ²	その他(学校)	岡山市済為中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	980921 ～000325	発掘調査 縄文～中世
造山古墳附1～6号 墳古墳	岡山市新庄下1174-2ほか	958.2m ²	その他の開発(遊歩道)	岡山市長 安宅敬祐	971015 ～980331	発掘調査 古墳
南方遺跡 集落	岡山市南方三丁目8-31地先 ～南方三丁目8-41地先	37.56m ²	径50mm配水管埋設工事	岡山市農田町二丁目1番1号 岡山市上下水道事業管理者 水道局長 進藤嘉昭	980401 ～980531	工事立会 弥生
庭田遺跡(包含層) 集落	岡山市庭田町二丁目5番1号	150m ²	学校(自転車置場取扱工事)	岡山市農田町一丁目1番1号 岡山市上下水道事業管理者 水道局長 進藤嘉昭	980309 ～980331	工事立会 縄文～中世
津島・岡大遺跡 集落	岡山市津島中二丁目1番1号	16m ²	岡山大学福利施設(病院) 新常に伴うポンプ部取扱工事	岡山市津島中一丁目1番1号 岡山市長 小坂二度見	980420 ～980430	発掘調査 縄文～近世
新道遺跡 集落	岡山市新道1番地	990m ²	ブルー・給食棟新築工事	岡山市長 安宅敬祐	981001 ～990331	発掘調査 古墳・中世
庭田遺跡 集落	岡山市庭田町一丁目5番1号	390m ²	岡人医学部教款怎都新入路 整備工事。医学部案内板設置	岡山市済為中一丁目1番1号 岡山大学長 小坂二度見	980323 ～980430	工事立会 縄文～中世

遺跡の名称及び種類	所在地	面積	工事の目的	主体者	工事期間	指導と時代
北方敷地内遺跡 集落跡・生産遺跡	岡山市中井町一丁目2-4地先、中井町二丁目6地先	668m ²	水道配水管等500m ² の布設	岡山市應田町一丁目1-1 岡山市水道事業管理者 水道局長 遠藤嘉昭	980420 ~990319	工事立会 糸良・中世
津島遺跡 敷地跡 集落跡・生産	岡山市津島福居一丁目7-29-1地先ほか	1386m ²	下水道	岡山市長 安宅敦祐	9805下旬 ~990331	工事立会 弥生~平安
津島遺跡 敷地跡 集落跡・生産	岡山市中井町一丁目2-4地先ほか	415m ²	下水道	岡山市長 安宅敦祐	9805下旬 ~990630	工事立会 弥生~平安
津島遺跡 敷地跡 集落跡・生産	岡山市津島新野一丁目5-26地先ほか	2786m ²	下水道	岡山市長 安宅敦祐	9805下旬 ~990331	工事立会

遺跡発見の届出（第57条の5）

遺跡の名称及び種類	所在地	面積	工事の目的	主体者	工事期間	指導と時代
高瀬川崎遺跡 敷地	岡山市庭瀬字川崎434番	202.33m ²	土木工事（自動車・携帯電話無線局施設）	広島市中区城町13番11号 株式会社デジタルツーカー中国 代表取締役 国本光生	970526	発掘調査 弥生・古墳
中尾遺跡 敷地	岡山市中尾・沼地内		土木工事（工事用道路施工中）	岡山市神田二丁目1番25号 ライフオフ株式会社 代表取締役 大塚祥文	970528	発掘調査
小山波り遺跡 集落跡	岡山市小山波り308番3外		分譲宅地の造成	岡山市吉備津3405番地3 ベルデ企画有限公司 代表取締役 片桐 憲	970701 ~71030	工事立会 弥生・中世
宗形神社古墳 古	岡山市大輝193		仮設造の設置	岡山市大輝193 宗教法人宗形神社 代表役員 伊丹正秋	970707	発掘調査 古墳
集落跡	岡山市伊福町3-7-2		土木工事中（基礎掘削）	岡山市伊福町3丁目2-4 有限会社小林ダイヤ商會 代表取締役 小林功也	970722	慎重工事 弥生・古墳
高松庄場遺跡 敷地	岡山市高松字庄場一小山字波り地内		土木工事中（水路改良）	岡山市高松原古才247番地 高松土地改良区 理事長 渡邉晴生	971208 ~971216	中世
敷地	岡山市津島東三丁目2656-14		自家発電設備設置のため	岡山市理大町1-1 学校法人加計学園 理事長 加計 勉	980228	発掘調査 古墳

遺跡発見の通知（第57条の6）

遺跡の名称及び種類	所在地	面積	工事の目的	主体者	工事期間	指示と時代
古墳	岡山市新庄下字附1174			岡山市教育委員会 教育長 戸村彰幸	971118	遺跡発見の時は速 速なく通知のこと 占拠

史跡現状変更許可申請（第80条）

遺跡の名称及び種類	所在地	面積	目的	主体者	工事期間	時代
岡山城跡	岡山市丸ノ内		第7回新築	岡山市丸ノ内2-1-3 山陽放送株式会社 営業局長 香田一郎	971001 ~971003	中世・近世

III. 普及・啓発事業と刊行物

例年は文化財保護強調週間にあわせた速報展を開催しているが、本年度は休止し、拡大的に『岡山城築城400年』関連事業の一環として出土遺物展と講演会を実施した。また発掘調査の現地説明会は2か所で行うことができた。報告書の刊行は、発掘主体者の義務であり、迅速に行われなければならぬのが、あいかわらず立ち遅れているのが、実状である。

◎発掘でたどる岡山のあゆみ展

1997年11月22日～12月23日。岡山城築城400年インフォメーションセンター（中国四国農政局跡）5階展示場で、南方遺跡出土品など岡山市教育委員会が過去に発掘した代表的な遺物を一堂に展示了。記念の講演会は招請講師による講演と職員による遺跡紹介を組合せた。

- ・11月29日　（岡山市立中央公民館）
工楽普通「わが国の木工文化のはじまりと漆文化」
神谷正義「寛永通寶の製作工房」
河田健司「岡山城二の丸発掘調査」
- ・12月13日　（岡山市立中央公民館）
山田昌久「弥生時代の木製品」
扇崎由「南方遺跡のはなし」
草原孝典「足守荘の遺跡散歩」

◎発掘調査現地説明会（遺跡内容は第1章を参照）

- 備中高松城（市道） 1997年12月14日（約300名）
岡山城本丸下の段 1998年3月15日（約150名）

◎刊行物

『岡山城内堀』

1996年度に行った本丸西側内堀の構造調査と1989年に石関町のビル建設に伴って行った外側の内堀跡の発掘報告。旧地形と石垣下部構造、導水施設を展望。

『すくも山遺跡』

第1章に概要を掲載した発掘の報告書。中世墓地の構造についてや、『足守荘絵図』と現景観を対比しての考察なども行う。

『造山第4号古墳』

1991年に造山古墳の陪塚付近での道路工事に緊急対応した際の報告。家や短甲といった形象埴輪の存在は特に注目され、軌立貝形の可能性が強まった4号墳の墳丘形態や時期を展望。

『岡山市埋蔵文化財調査の概要』1996（平成9）年度



第1図 特別展記念講演Ⅰ



第2図 特別展記念講演Ⅱ



第3図 備中高松城の説明会



第4図 岡山城本丸の説明会

IV. 受領図書一覧

各地の教育委員会及び研究機関から交換図書あるいは寄贈図書として、毎年多くの報告書が岡山市教育委員会に送付されます。それらは、芳田収蔵庫に整理保管しており、発掘調査を進めるうえで適宜参照し活用させていただいています。受領図書一覧を掲載する事によってそのご厚情に感謝の意を表させていただきます。送って頂いている各教育委員会及び研究機関の方々にお礼申し上げます。

凡例

県名（県コード）

所属機関

報告書名（シリーズ名） 発行年月日

（財団法人は（財）、シリーズ名における市名・教育委員会名は「市」と省略、また埋蔵

岩手県（03）			
盛岡市教育委員会			
国指定史跡志波城跡	9603	大庭敷跡V 上野国分寺参道遺跡	970325
盛岡の文化財	970926	宮地中田遺跡（都市計画道路朝倉玉村線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書）	970328
盛岡観光協会		鶴光追跡引違跡	970331
わたしの盛岡	920701	小坂子浜田I・II遺跡	970331
福島県（07）			
会津若松市教育委員会		前橋市教育委員会	
西水流C遺跡～松本北部地区県営は塙整備事業実施調査概報	970325	小二丁古墳（大室公園史跡整備事業に伴う施設調査報告書）	970228
報V（平成8年度）～（市文化財調査報告書第51号）		報IV	
磐梯原山N-II遺跡～会津レクリエーション公園整備に伴う	970325	平成8年度市内遺跡発掘調査報告書	970331
発掘調査概報I（平成8年度）～（同上第52号）		高崎市教育委員会	
（財）いわき市教育文化事業団		上小寺東京I・II遺跡～上小寺山地壁建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査（市文化財調査報告書第147集）	970331
登録跡～古代集落と中世城跡の調査（市文化財調査報告）	960317	南郷東城跡・福井跡～都市計画道路南八幡京ヶ島線建設	970325
いわき市教育文化事業団研究紀要第8号	970213	に伴う埋蔵文化財調査報告書（河上第148集）	
永田遺跡～古代城柵遺構の調査～ 主要地方道いわき浪江	970319	高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書II	970331
線（白谷バイパス）埋蔵文化財調査報告I（市文化財調査報告第48冊）		（同上第149集）	
泉町C遺跡～古代集落跡の調査～（河上第51号）	970325	高崎市内遺跡出土資料整理報告書I～平成8年度資料卷	97
横川遺跡～平成8年度施設跡発掘調査概報～	970325	選報章（同上第153集）	
茨城県（08）		高崎市遺跡調査会	
五星里村教育委員会		飯塚町内遺跡跡～民開発商店舗建設に伴う調査報告書～（市埋蔵文化財調査報告書第54集）	961201
五万堀遺跡	97	高崎情報周辺遺跡（同上第55集）	970325
五星里村立資料館		岩槻町I遺跡（河上第56集）	961031
五星里村立資料館報告第2号	970331	上中居西脇II遺跡（河上第59集）	970325
栃木県（09）		大沢遺跡（河上第60集）	970325
ミュージアム氏家		中尾村前田II遺跡（河上第61集）	970325
藤山城～氏家・栄光の時代～	970911	上高柳町北II遺跡～鉢巻工事に伴う調査報告書	970325
群馬県（10）		（同上第62集）	
前橋市埋蔵文化財発掘調査団		上中居荒神I遺跡～貸事務所建設に伴う調査報告書	970130
総社愛宕山遺跡（前橋市立第六中学校移転新築事業に伴う	960325	（同上第63集）	
櫻文発掘調査報告書第1巻）		上大隅坂サ屋遺跡～店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（同上第64集）	970325
福岡前遺跡（富田受水場造成事業に伴う櫻文発掘調査報告書）	961110	上妻桜御所II遺跡～民開発による共同住宅建設事業に伴う理文発掘調査報告書（同上第65集）	970331
六供下愛木山遺跡（六供下地区調査事業に伴う櫻文空堀調査報告書）	970319	飯塚大高代遺跡～共同住宅建設に伴う調査報告書～（同上第67集）	970320
		上中居高瀬部遺跡～民間宅地開発に伴う調査報告書（同上第68集）	971015

高崎市 X 道跡	970315
埼玉県 (11)	
浦和市教育委員会	
井沼方遺跡、井沼方南遺跡発掘調査報告書 (市内遺跡発掘調査報告書第24集)	970325
馬場小室遺跡発掘調査報告、井沼方遺跡発掘調査報告 (同上第1集)	960228
浦和市遺跡調査会	
水深遺跡 (第2次)・水深北遺跡 (第3次) 発掘調査報告書 告書 (市遺跡調査会報告書第210集)	960325
本村遺跡発掘調査報告書 (第X 目地点) 埼玉大学経済 学部校舎建設工事に伴う調査 (同上第212集)	960610
前庭遺跡発掘調査報告書 (第3次) (同上第213集)	960630
大久保家町片町遺跡発掘調査報告書 (同上第215集)	960830
大崎東新井遺跡 (第2次)・大崎北久保遺跡 (第1次、 第2次) 稲荷西遺跡 (第2次) 発掘調査報告書 国道463号建設地内 (大崎大門地区) 発掘調査報告書 2 (同上第216集)	960930
東浦遺跡発掘調査報告書 (第3次) (同上第217集)	960930
中尾山・丸山遺跡発掘調査報告書 (同上第220集)	960930
大崎橋本遺跡 (第2次)・大崎新井遺跡 (第3次) ・大崎北久保遺跡 (第3次) 発掘調査報告書 国道463号 建設地内 (大崎大門地区) 発掘調査報告書 3 (同上第229集)	970325
鴻巣市教育委員会	
鴻巣市の近世寺社建築 (鴻巣市文化財発掘調査報告第9集)	960330
千葉県 (12)	
(財) 千葉市文化財調査協会	
埋蔵文化財調査 (市内遺跡) 報告書一平成8年度~	970331
(市内遺跡調査報告書第9号目)	
市川市教育委員会	
平成元年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告	900330
須頃遺跡 第5号地 (平成3年度市埋蔵文化財発掘調査報告)	920331
市川市出土遺物の分析—古代の鉄・土器について—	960329
庚原山跡第5地点 (平成8年度市内遺跡発掘調査報告)	970331
松戸市教育委員会	
平成7年度松戸市内遺跡発掘調査報告書	980331
(市文化財調査報告書第25集)	
立て出し遺跡発掘調査報告書 (同上第26集)	970331
萩木山跡第4地点発掘調査報告書 (同上第27集)	970331
松戸市遺跡調査会	
小金城跡 (第4地点) 小金城跡内所在古墳時代・中世遺 跡の調査	970520
山武考古学研究所	
乗合鉄道	960331
山武考古学研究所年報 No.15	971031
流山市教育委員会	
千葉県流山市中野久木谷遺跡C地点 (市埋蔵文化財調査 報告 Vol.23)	970325
流山市上新宿貝塚 観察確認調査報告書 (同上 Vol.24)	970325
平成8年度流山市内遺跡発掘調査報告書 I・市野谷地藏 翁ノ遺跡 B 地点 II・古閑木塚・黄木谷遺跡 III・加村台遺 跡 F 地点 (同上 Vol.25)	970325
東京都 (13)	
千代田区教育委員会	
千代田区文化財調査報告書 9 (区立四番町歴史民俗資料館 収蔵資料目録1)	970331
千代田区立四番町歴史民俗資料館	
東京都千代田区尾張長 跡跡 II 一ハウス食品株式 970831 会社東京本社ビル新築工事に伴う発掘調査	
千代田区車町遺跡調査会	
東京都千代田区車町跡 一警察庁半町宿舎建設工事に伴 う調査	970331
地下鉄7号線猪池・駒込駅遺跡調査会	
猪池遺跡 (地下鉄7号線猪池・駒込駅遺跡発掘調査報告 書 7-1)	970321
江戸城外周櫓跡 四谷御門外櫓跡・御堀端塗・町屋跡 (考察編) (同上 4-3)	970331
淀池運河 (同上)	970521
新宿区南町遺跡発掘調査会	
東京都新宿区南町遺跡 (仮称) DIA・PARK 市ヶ谷建設工 事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	970331
新宿区西早稲田三丁目遺跡調査会	
東京都新宿区西早稲田三丁目遺跡 II 西早稲田三丁目プロ ジェクト新築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	970331
新宿消防署改修予定地遺跡調査会	
東京都新宿区百人町二丁目西遺跡 II 東京都消防厅新宿消 防署改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	970331
足立区立夷隅防護調査会	
伊興遺跡 下水道敷設工事に伴う発掘調査	970331
神奈川県 (14)	
小田原市教育委員会	
中里遺跡第III地点発掘調査報告書 (市文化財調査報告第 61集)	970314
小田原城三の丸 衛長屋跡跡第I地点 (同上第62集)	970314
物見坂古墳発掘調査報告書 (同上第63集)	970314
平成6年度小田原市堅色免配調査報告書 (同上第64集)	970331
公共下水道埋木大野汚水幹線工事施設内埋蔵文化財発掘調査 隊本遺跡 (公共下水道埋木大野汚水幹線工事に伴う埋蔵文 化財発掘調査報告書)	970315
横山 5丁目遺跡調査会	
相模原市5丁目遺跡発掘調査	970331
相模原市 No.15遺跡発掘調査回	960731
相模原市 No.16遺跡発掘調査	960731
相模原市 No.27遺跡発掘調査	970331
相模原市大島上ノ遺跡発掘調査	960331
相模原市大島上ノ遺跡調査	960331
相模原市市道西畠30号ほか1道路改良事業地内遺跡発掘調査 隊仮設跡第47次調査	960325
新潟県 (15)	
三条市教育委員会	
半澤寺遺跡 布施谷川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘 調査報告書 (市文化財調査報告書第8号)	970314
富山县 (16)	
(財) 富山県文化振興財団	
埋蔵文化財年報 (8)	970331
(財) 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	
埋蔵文化財調査全般要一平成8年度— (財) 富山県文化振 興財团埋蔵文化財調査事務所	970331
富山市考古学資料館	
富山市考古学資料館紀要第17号	970731
下村教育委員会・富山県埋蔵文化財センター	
下村埋蔵文化財調査報告書 1 (富山県下村 下村加茂遺跡 発掘調査報告書)	9703

舟橋村教育委員会・富山県埋蔵文化財センター 船橋村埋蔵文化財調査報告書Ⅰ (富山県舟橋村) 墓地Ⅰ 遺跡 第3・4次発掘調査報告書	9703	H-22号墓発掘調査概要報告書 伊勢山中学校遺跡-第6次発掘調査の概要- 堅三郎通遺跡-第1・3次調査の概要- 名古屋市見附山考古資料館	970328 970331 970331
石川県 (17)		見附山教窓'96 名古屋市見附山考古資料年報Ⅱ (平成8年度事業報告 曾浦遺跡発掘調査概要報告書)	961219 970710 961227
金沢市教育委員会 安曇野市道跡 (市文化財紀要130) 金沢市松寺遺跡 (同上131) 本町一丁目道跡 犬追片原町地Ⅱ (同上132) 平成8年度 金沢市埋蔵文化財調査年報 (同上134)	970331 970331 970331 970331	豊橋市教育委員会 椎川山 平成8年度市内遺跡発掘調査事業 (豊橋市埋文調 糸佐曾浦35集)	970331
金沢市教育委員会・糸佐地区面積整理組合 戸出遺跡群 (市文化財紀要133) 不載		豊橋市教育委員会・牟呂地区面積整理調査会 市道跡群 単日土地区面積整理事業に伴う埋蔵文化財調査報 告書・市道地区 (豊橋市埋文調査報告書第20集)	961129
珠洲市教育委員会埋蔵文化財室 大谷町貞造跡 (カミナヤチ、カンノンドウ) 一般国道 219号道路改良事業に係る埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	970331	公文路跡Ⅲ・平尾町址 同上-公文地区 (同上第33集) 大畑道跡 同上-大畑地区 (同上第34集) 木持貝塚 同上-木持地区 (同上第36集) 大浜津遺跡 (II) 同上-大浜津地区- (同上第37集) 若宮遺跡 同上-若宮地区- (同上第38集)	970228 970325 970325 970622 970901
長野県 (20)		市道跡 (II) 同上-市道地区- (同上第40集) 中村道跡・作神遺跡 同上-中村・作神地区- (同上第41集)	961128 971226
岐阜県 (21)		豊橋市教育委員会・豊橋面積調査会 大西貝塚 (Ⅲ) (參照市埋蔵文化財調査報告書第39集) (財) 嶋戸市埋蔵文化センター	971031
岐阜市教育委員会 平成8年度岐阜市内道跡発掘調査報告書	9703	(財) 嶋戸市埋蔵文化財センター研究紀要 第5輯 平成8年度岐阜市埋蔵文化財センター年報	970325 970611
岐阜市歴史博物館 岐阜市歴史博物館研究紀要第11号	970331	品川西遺跡 (財团法人岐阜市埋蔵文化財センター調査報告第13集) 落合賛南遺跡Ⅰ (同上第14集) 太子八ヶ塚 (河上第15集)	970331 970331 970331
(財) 岐阜市教育文化振興事業団 飛騨・城之内 II (岐阜市坂田地区面積整理事業に伴う発 掘調査 その2)	970329	落合賛南遺跡Ⅱ (河上第17集) 八木ノ・10号窓跡 (河上第18集) 瀬戸・美濃系大窓とその周辺 大窓生産の成立と展開	980225 980306 971129
美濃市教育委員会 南山遺跡 (市文化財調査報告第8号) 美段遺跡 (河上第9号) 改田遺跡 (同上第10号)	970331 970331 970331	豊田市教育委員会 梅坪遺跡Ⅳ (市埋文調査報告書第7集) 豊田史料叢書 (渡辺半蔵家分譲版下)	970331 970930
可児市教育委員会 長坂古墳発掘調査概要報告書	970325	豊田櫻土資料館 キミは物語を見たかー豊田市の生んだ大絆手ー豊田市郷土・ 資料館開館30周年記念特別展	9707 9707
静岡県 (22)		長久手町役場 長久手町史 (資料編五 考古)	971120
静岡市教育委員会 平成8年度・平成古墳群2 (市埋蔵文化財調査報告38)	970303		
浜松市教育委員会 浜松市指定文化財 天然記念物 アカウミガメ生態調査の 報告書 (1987年度 (昭和62年度) ~1997年度 (平成9年 度) 事業報告)	980316	三重県 (24)	
三島市教育委員会 三島市文化財年報第8号	970201	津市埋蔵文化財センター 津市埋蔵文化財センター年報1 (平成6・7年度)	9703
三島大社境内遺跡第3地点 〈三島大社宝物館改築工事に伴 う発掘調査〉	970330	上野市教育委員会 上野市埋蔵文化財年報3 (1996年度)	9703
小平C遺跡 小平B遺跡 (県民総合健康センター建設 緑 の市民運動公園建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)	970330	上野市教育委員会・上野市遺跡調査会 蓮花の跡推定地遺跡発掘調査報告 (市文化財調査報告30) 道野遺跡発掘調査報告 (河上59)	970930 960331
猿投市教育委員会 八幡山横穴群 (市考古学資料集第3集)	970319	上野城跡発掘調査報告 (同上60) 比土城跡発掘調査報告 (河上61)	970331 970930
愛知県 (23)		鈴鹿市教育委員会 伊勢原分寺・国府跡4	970531
名古屋市教育委員会 埋蔵文化財調査企画書24 伊勢山中学校遺跡 (第5次) (市文化財調査報告31)	960339	幡野町役場 墨俣文字発見と四世紀の日本 (古代シンポジウム)	970531
埋蔵文化財調査報告書25 (同上32)	970329	幡野町教育委員会 野出遺跡発掘調査 (幡野町埋蔵文化財調査報告)	950630
埋蔵文化財調査報告書26 (同上34)	970325	片部遺跡への招請	960608
平成7年度 尾張天皇跡発掘調査報告書	970331		
名古屋城三の丸遺跡 第8・9次発掘調査概要報告書	97	滋賀県 (25)	
清水寺遺跡第5次発掘調査報告書	970328	滋賀県安土城郭調査研究所 滋賀県安土城郭調査研究所年報1994年度	9503

特別史跡安土城跡の調査	9503	大阪府 (27)
特別史跡安土城跡環境整備事業概要報告書Ⅱ－大手道・伝 羽柴秀吉陪葬－	9503	大阪府立弥生文化博物館 弥生文化博物館概要 平成8年度
御見寺文書目録Ⅱ・浄瓶院文書目録（安土城・織田信長館 達文書調査報告4）	9503	青銅の弥生都市（テクノポリス）－吉野ヶ里をめぐる有明の タグニニー（大阪京立弥生文化博物館14）
長浜市教育委員会		中赤井義牛（同上15）
大坂道跡Ⅱ－桃山時代後期から古墳時代の集落跡の調査－ (市埋文調査資料第14集)	960329	971004
川崎道跡Ⅱ発掘調査報告書－川崎道跡第27次調査報告書－ (同上第17集)	970331	大阪市教育委員会・(財)大阪市文化財協会 大阪市の文化財 改訂第7版
下坂道跡－大坂道跡・下坂中里墓群－下坂中下之郷 雄良関遺跡－(同上第18集)	970630	9703 平成2年度 大阪市埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書
神戸道跡発掘調査報告書 試掘調査と第2次調査(市道西 上坂・草谷西線)道設置工事に伴う発掘調査)及び第1 次調査(同上第19集)	971231	大阪城天守閣 大阪天守閣記要 第二五号
経田寺道跡－市道大坂平方南線関連－(同上第20集)	970328	特別異常区家の名室 971010
草津市教育委員会		草津市立埋蔵文化財センター
草津川改修関連発掘調査概要報告書Ⅲ(市埋文調査報 告書28)	9703	①草津市都市道跡発掘調査概要報告 ②上町口道跡発掘調 査概要報告(市文化財調査報告第65冊)
平成6年度草津市文化財年報	970329	③草津市都市道跡(SKT428) ④鶴田町道跡(TTC-2)
草津市本陣田中家歴史資料館企画報告書一	970331	⑤長浜古道跡(NC-2) (同上第67冊)
中主町教育委員会		豊中市教育委員会 豊中市埋蔵文化財年報 Vol.4
平成7年度中主町内道跡発掘調査実績Ⅰ(町文化財調査報 告書47集)	9603	9603
古地楽部堂遺跡第36次発掘調査概要報告書－中主町公民館 建設に伴う発掘調査報告書1(同上第49集)	980329	池田北遺跡第12次発掘調査報告(市文化財調査報告第36集)
平成8年度中主町内道跡発掘調査実績Ⅰ(同上第51集)	9703	9503
京都府 (26)		豊中市埋蔵文化財発掘調査概要平成8年度 説法流路大業 災復旧、復興事業に伴う発掘調査(同上第39集)
(財) 京都府埋蔵文化財センター		豊中市埋蔵文化財発掘調査報告書平成7年度 反対流路大業 災復旧、復興事業に伴う発掘調査(同上第40集)
京都府埋蔵文化財情報誌第63号	970326	池田市教育委員会 池田城跡－主郭の調査－(市文化財調査報告第18集)
同上第64号	970626	9403
同上第65号	970926	池田市埋蔵文化財発掘調査情報(同上第23集)
同上第66号	971226	970331
(財) 京都府埋蔵文化財研究所		泉大津市教育委員会・池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業実行委員会 史跡池上曾根遺跡史跡指定20周年記念事業の記録
京都駿河原の迷跡－広域立会による道跡調査による－ (市埋文研究室調査報告第14集)	970228	9703 高槻市埋蔵文化財調査センター 高槻市埋蔵文化財調査センター
鹿苑寺－特別史跡特別名勝鹿苑寺(金剛寺) 鹿苑－ (同上第15回)	970201	鷲上跡群(市文化財調査概要23) 高槻市埋蔵文化財調査概要
長岡京左京出土木簡物－(同上第16回)	971130	員導市教育委員会 員導町道跡群発掘調査概要(市埋文調査報告第40集)
平成7年度京都府埋蔵文化財調査概要	970331	970331
同志社大学校地学術調査委員会		JR新聞道跡発掘調査概要(同上第41集)
上京・四大路可道跡跡の御所構造地点の発掘－同志社大学育真館地 点の発掘調査－	9703	970331 加治、神前、島中遺跡発掘調査概要(同上第42集)
(財) 向日市埋蔵文化財センター		枚方市教育委員会 淀川北岸の交通史－枚方城辺のひと、ものの流れ－講演記
平成7年度(財)向日市埋蔵文化財センター年報－都城8－	970303	9703 舞楽(平成6年度市民歴史講座)
市埋文調査報告書第41集	970331	枚方市埋蔵文化財発掘調査概要 1996(市文化財調査報告 第31集)
牧集女城跡 MOZUME/OATO (市埋文調査報告書第42集)	970322	970331
市埋文調査報告書第44集	970331	枚方市立中町鉄物民俗資料館 増改訂 枚方市立中町鉄物民俗資料館
むこうまち往来こばなし(ふるさと文庫1)	970331	970331
長岡京市教育委員会		(財) 枚方市埋蔵文化財研究調査会 (財) 枚方市文化財研究会
古埋文調査報告書第36冊	970331	970331 枚方市文化財年報18(1996年度分)
井ノ内稻荷古墳2.－第4次発掘調査無報－ (市文化財調査報告書第37回)	970331	970701
(財) 長岡京市埋蔵文化財センター		茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館 大阪府次木市平成8年度発掘調査概報
長岡京跡右京第548次調査概要(市埋文調査報告書第9集)	970331	970331
長岡京跡右京第六条一坊・町・三町の調査(同上第10集)	970620	八尾市内遺跡平成8年度発掘調査報告書1－平成8年度国 庫援助事業－(市文化財調査報告36)
長岡京市埋蔵文化財センター年報	970328	8尾市内遺跡平成8年度発掘調査報告書II－平成8年度公 共事業－(同上37)
長岡京市埋蔵文化財センター年報－平成7年度－	970329	富田林市教育委員会 平成7年度富田林市内道跡群発掘調査報告書(市埋文調査 報告書27)
		平成8年度富田林市内道跡群発掘調査報告書(同上28)
		970331
		富田林市道跡調査会 喜志西遺跡(市道跡調査会調査報告1)
		960731

富田林市石川化石発掘調査会	東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要 1995年度調査(2) — I若江遺跡(第59次発掘) II若江遺跡(第60次調査) Ⅲ吉ヶ丘遺跡(第83次調査)	
富田林の足跡化石—100万年前の自然を復元する—	940331	
河内長野市教育委員会	(財) 東大阪市文化財協会概報集—1996年度(1)— 鬼城跡第8次発掘調査報告	
河内長野市埋蔵文化財調査報告書一小塙遺跡・長野寺社遺跡 跡・大日寺道跡・鳥居前子道跡・三日市遺跡神が丘近世 墓—(市文化財調査報告書33)	970331	
高岡神社本殿保存修理工事会	共同住宅建設に伴う鬼城跡第3次発掘調査概報	
高向神社本殿保存修理工事報告書	(財) 東大阪市文化財協会・東大阪市教育委員会 神並遺跡 XⅣ	9703
大阪城天守閣	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告—1994年度— 鬼虎川遺跡第33次発掘調査報告	
堺御殿の名室	水道施設第3次・鬼虎川遺跡第21次発掘調査報告	
(財) 大阪市文化財協会	鬼虎川遺跡の弥生貝塚(第21・27次発掘調査) 郷土史のたのしみ	
天満本願寺跡発掘調査Ⅱ	970310	
広島市大坂廬敷塚跡—大阪市北区中之島4丁目における発 掘調査—	970331	
長坂・瓜破遺跡発掘調査報告書(1989年度大阪市長谷瓜破 地区)地区西瀬整理事業に伴う発掘調査報告書)	970331	
長原・瓜破遺跡発掘調査報告書X(1995年度調上)	970331	
羽曳野市教育委員会	東南北古代寺院の成立と展開 日本古代国家の成立を探る・V	
古市遺跡群ⅤⅥ(市埋蔵文化調査報告書第34)	970331	
国道308号線開闢跡調査会	971101	
鬼虎川遺跡—大阪市都島区高庭道築造東大阪縮計画事業にとも なう発掘調査概要(その2)	811001	
東大阪市埋蔵文化保護調査会	北の都泉州平泉—	
瓜生山山崩跡・良木遺跡(市埋蔵文化調査概報20)	800331	
東大阪市遺跡保護調査会年報 1979年度	801031	
東大阪市埋蔵文化保護調査会発掘調査概要集 1980年度	811031	
若江遺跡発掘調査報告書T—本文編一	820331	
織手遺跡調査会	平成2・4年度 神戸市埋蔵文化財年報	
鴨手遺跡1	9703	
(財) 東大阪市文化財協会	特別展 福原京とその時代—对外交流の門戸博多・平安京 —北の都泉州平泉—	
鬼虎川の金属資源関係物—第7次発掘調査報告書2—	820701	
若江遺跡発掘調査報告書I—遺物編一	830331	
若江遺跡—神農東学園校舎建設に伴う遺跡調査報告書	8403	
高井戸遺跡第2・3・4次開拓報告	8403	
(財) 東大阪市文化財協会年報 1983年度	840331	
芝・丘遺跡発掘調査報告書—石切中学校校舎建設に伴う第4 次開拓—	8503	
八宝寺遺跡発掘調査報告書—久宝寺緑地公園内雨水池泄水溝	8611	
施工事に伴う発掘調査—	870331	
奈良時代の東大阪	近畿の出土鐵I—論文編一	
西之江遺跡第33次発掘調査報告	971025	
西之江遺跡第22次発掘調査報告	尼崎市教育委員会	
北島遺跡の耕作地跡・古墳群—寝屋川南浦地域附ボンブ 場—小工事に伴う北島遺跡第1次発掘調査報告書—	道・丁遺跡(第7次)一市営住宅建設に伴う堺城文化財調 査報告書—(市文化財調査報告書25集)	
布施駅北口駐車場及び寝屋川流域埋蔵文化財発掘調査工事に伴う宮 ノ下遺跡第2次発掘調査報告書	970301	
東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告書—1995年度—	970331	
宮ノ下遺跡東部における歴史時代の廻り 地下盤管工事 に伴う宮ノ下遺跡第7次発掘調査報告	970331	
神並遺跡西端部の歴史時代水路跡と縄文—奈良時代の埋積 谷 下水1-10号工事に伴う神並遺跡第8次発 掘調査報告	970331	
鬼虎川遺跡第35-1次発掘調査報告	970331	
鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作地跡と地震層序 国道170 号線被覆開削地前交差点立体交差歩道にともなう鬼虎川 遺跡第38次発掘調査報告書	970331	
東大阪市埋蔵文化財発掘調査概要—1995年度調査(1) — I 沼津川遺跡第8次調査概要 II瓜生堂遺跡第42次調査 概要 III貝花遺跡第2次調査報告	970331	

<p>上郡町教育委員会 発掘されたかみごおりー平成元年～8年度の発掘調査の成 果より 安富町教育委員会 谷山遺跡（町文化財調査報告4） 970331</p>	<p>(財) 和歌山市文化体育振興事業団 太田・黒田遺跡第33・34次発掘調査概報－（市文化体育振興事業団調査報告書 第14集） 府中Ⅳ 遺跡－第2次発掘調査概報－（同上第15集） 961220 和歌山市埋蔵文化財発掘調査年報3（平成4・5年度） 960331 和歌山市内遺跡発掘調査年報4（平成6年度） 970331 和歌山市内遺跡発掘調査年報（平成7年度） 960331 和歌山市内遺跡発掘調査概報（平成8年度） 970331</p>
<p>奈良県（29） 奈良県教育委員会・奈良県立橿原考古学研究所 奈ノ前遺跡（奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第53号） 880331 奈良県教育委員会 史跡新沢千塚古墳群整備事業報告書一ふるさと歴史の広 場事業一 920331</p>	<p>鳥取県（31）</p>
<p>奈良県立橿原考古学研究所 奈良県道調査概報、1994年度（第1分冊） 950331 奈良県道調査概報、1994年度（第2分冊） 950331 橿原考古学研究所年報21 平成7年度 960331 宮窪遺跡・遺構編（奈良県史跡名勝天然記念物調査報告第71号） 960331 一ノ谷遺跡（奈良県文化財調査報告書第74号） 960331 別所谷遺跡（阿上第75号） 970331 櫻原考古学研究所所長記 考古学論叢第21号 970331 大和の崩落古墳 烏の山古墳調査概報 付、小泉大塚古墳 調査報告 不載</p>	<p>福井県（31）</p>
<p>奈良大学文学部文化財学科 文化財系講義 第十五集 970330 シルクロード学研究センター 古代ホラズムの研究アムグリヤ下流域を中心として 960331 （シルクロード学研究2） シルクロード学研究3 シルクロード学研究センター研究 970331 紀要 仏伝美術の伝播と変容・シルクロードに沿って</p>	<p>福井県教育委員会 史跡見附跡・山根城跡等発掘調査報告書（村川調査報告書第11集） 970319</p>
<p>奈良市教育委員会 史跡人安寺跡内T-1杉山古墳地の発掘調査・整備事業報告－（市文化調査報告 第1冊） 平城京・藤原京出上軒瓦式第一式一覽 960331 平城京北二条・坊二坪一発掘調査の概要一 970224 奈良市埋蔵文化財調査センター記要1996 970329 奈良市埋蔵文化財調査報告書（平成8年度） 970331 平城京出土勘定地の岡畠15（第19次発掘調査概報） 970331</p>	<p>島根県（31）</p>
<p>櫻原市千塚資料館 かしはらの歴史をさぐる5 平成8年度埋蔵文化財発掘調査 970722 立会相談</p>	<p>鳥取県（31）</p>
<p>櫻原市教育委員会 櫻原市埋蔵文化財発掘調査概報 中曾司遺跡・大屋原京 路・駅跡・藤原京路・史跡丸山古墳（市埋蔵文化財 調査報告13） 960329 櫻原市埋蔵文化財発掘調査概報 中曾司遺跡・弁天坂古墳 -・東山古墳・久米寺跡・17-A-374遺跡（同上14） 970331</p>	<p>福井県教育委員会 尾高城跡発掘調査報告書 780330</p>
<p>田原本町教育委員会 田原本町埋蔵文化財調査年報5（1994・1995年度） 960329 唐古・鍾遺跡 第60次発掘調査報告（町文調査報告15） 970328 唐古・鍾遺跡 Vol.1概説編（田原本町の遺跡1） 970331</p>	<p>（財）米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 石州府第2号遺跡・鳥取県企美局日野川工業用水配水池設置 950331 工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一（財）市教育文 9603 化事業団文化財発掘調査報告書11）</p>
<p>和歌山県（30）</p>	<p>新山田遺跡（第5次） 米子市教育委員会・尾高城跡発掘調査団</p>
<p>和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所 平成7年度 紀伊風土記の丘年報 第23号 960918 特別展 石碑と石像 1996.10.5-11.24 不載 和歌山市教育委員会 喜家作り足家実測調査報告書 960731 和歌山市加太く爻ヶ島出土の鉛器 和歌山市立博物館 研究紀要12 970331</p>	<p>尾高城跡発掘調査報告書 780330</p>
<p>和歌山県（30）</p>	<p>（財）米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 石州府第2号遺跡 II -（財）市教育文化事業団文化財発掘調査 報告書21）</p>
<p>和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所</p>	<p>米子城跡II遺跡（同上20） 970331 宗像前田遺跡（同上21） 970331</p>
<p>平成7年度 紀伊風土記の丘年報 第23号 960918 特別展 石碑と石像 1996.10.5-11.24 不載</p>	<p>丹波田第6遺跡・陰田跡の谷道路3区・4区一般国道180号 970331 道路改良工事 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一（同上23）</p>
<p>和歌山市教育委員会</p>	<p>吉野吉教育委員会</p>
<p>喜家作り足家実測調査報告書 960731 和歌山市加太く爻ヶ島出土の鉛器 和歌山市立博物館 研究紀要12 970331</p>	<p>夏谷遺跡発掘調査報告書（市文化財調査報告書第84集） 970329 不入間遺跡発掘調査報告書（同上第85集） 970319 樋谷遺跡発掘調査報告書（同上第86集） 960229 吉古市内遺跡分布調査報告書（同上第87集） 970319 下張河遺跡発掘調査報告書（同上第88集） 970319 同長谷遺跡発掘調査報告書（同上第89集） 970319 下西野遺跡発掘調査報告書（同上第90集） 970319 円谷城跡発掘調査報告書（同上第91集） 970331</p>
<p>和歌山県（30）</p>	<p>鳥根県（32）</p>
<p>和歌山県立紀伊風土記の丘管理事務所</p>	<p>鳥根県埋蔵文化財調査センター</p>
<p>平成7年度 紀伊風土記の丘年報 第23号 960918 特別展 石碑と石像 1996.10.5-11.24 不載</p>	<p>鳥取城跡・越智遺跡 9703 福富I遺跡・星形1号墳（一般国道9号（松江道路西地区） 970331 建設予定地内埋蔵文化財調査報告書2）</p>
<p>和歌山市教育委員会</p>	<p>鳥根県教育委員会</p>
<p>喜家作り足家実測調査報告書 960731 和歌山市加太く爻ヶ島出土の鉛器 和歌山市立博物館 研究紀要12 970331</p>	<p>古代出雲文化遺跡・神々の国 悅久の遺産一 970426 埋蔵文化遺産センター年報V. 970331 かんじの瀬戸 忠津記グム建設予定地内の瀬戸（3） 970331</p>

岡島県教育委員会・埋蔵文化財発掘センター	岡山の自然と文化 16—郷土文化講座から—	970331
塙山古墳群（一般国道9号（安来道路）建設予定地内埋 文发掘調査報告書Ⅱ）	岡山の食文化振興局	970331
塙山古墳群・鳳ノ原遺跡（同上 西地区）	倉敷地方の文化財	9703
徳見洋遺跡・官道遺跡・陽寺寺遺跡（同上12）	倉敷埋蔵文化財センター	970331
石屋口北遺跡・白コクリ遺跡（F区）（同上13）	倉敷埋蔵文化財センター年報3 平成7（1995）年度	961130
岸尾遺跡・鶴田遺跡（同上 西地区）	池尻遺跡（市川文发掘調査報告第6集）	970331
柳Ⅱ遺跡・小久白墳墓群・神代谷遺跡（同上 西地区4）	倉敷市史研究会	970335
高久志遺跡・糸田C遺跡・古川駒付近遺跡（一般国道9号 （津市道）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ）	倉敷の歴史－倉敷古史紀要－	970335
稲原遺跡・殿浦山毛毛田跡・谷川遺跡（北津見ダム建設 に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ）	日上天王古墳発掘調査委員会	970331
松本古墳群・大角山古墳群・すべりざこ古墳群（一般国道 9号松江道路（西地区）建設予定地内埋蔵文化財発掘調 査報告書3）	日上天王古墳（津市津川文化財発掘調査報告第60集）	970331
布志名谷I遺跡・布志名谷II遺跡・布志名才の神道跡 (同上4)	津市教育委員会・弥生の里文化財センター	970331
本庄川流域赤堀遺跡（国道431号横浜バイパス建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書V）	西吉井北遺跡（市川文发掘調査報告第5集）	970331
よみがえるまきみがわのながれ－朝附川中小河川改修工 事区域内埋蔵文化財発掘調査報告書一	有木古墳群－津川総合流域通セント・埋蔵文化財発掘調査報 告書1－（同上50集）	970331
島崎縣立八幡立つ風土記の丘	永見屋敷跡－作州ふるさと観光センター移転にともなう発 掘調査企（同上51集）	970331
プレ古代出雲文化サインスロゴ「IZUMO」古代 出雲文化への招待	年報 津山郷市・里第4号（平成7年度）	970331
松江市教育委員会	津山郷土博物館	970331
石畠調査報告書－史跡松江城－	衆楽園	970308
飛込遺跡発掘調査報告書	津山松平藩町奉行記五（津山郷土博物館紀要第9号）	970331
小田無II湖底発掘調査報告書（市文化財調査報告書第75集）	製鉄の起源をさぐる（津山郷土博物館特別展図録第11号）	971004
（財）松江市教育文化振興事業団	津山郷土資料館	970331
埋蔵文化財調査報告（平成5～7年度）	洋子研究誌 一演 第5号	9710
出雲市教育委員会	笠岡市教育委員会	970331
天神遺跡第1次発掘調査報告書－出雲市駅付近立体交 差事業地内－	開聞寺（市川文发掘調査報告3）	970331
出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第7集	総社市教育委員会	970331
川本町教育委員会	総社市埋蔵文化財調査年報7	970929
丸山城調査報告書	長船町教育委員会	970331
（同上）	駒部廻寺（可憐文发掘調査）	970331
岡山県古代吉備文化財センター	早島町・早島町史編纂委員会	970331
前山遺跡・鏡戸原遺跡－国道429号線改良に伴う発掘調査 I－（県埋蔵文化財発掘調査報告115）	早島の歴史1 通史編（上）	9703
津市遺跡4－山陽自動車道建設に伴う発掘調査14－（同上116）	井手町三重顕彰会	960990
岡山県教育委員会	民権運動と郷土の創造に生きた井手毛三の業績	960990
岡山県埋蔵文化財部書27	久世町教育委員会	970331
小中遺跡・白堀遺跡・小中古墳群 湯ヶ塚古墳－おかやま 文化財発掘調査報告117）	五反魔寺（可憐文发掘調査報告第2集）	970331
寺山古墳群・人日體山城出丸跡－岡山淨水場建設に伴う発 掘調査企（同上118）	久世然を生きかず会	970331
百間川兼善遺跡3 百間川今谷遺跡3 百鶴川沢田遺跡4 －旭川放水路に伴う発掘調査－（同上119）	久世町の樹木	970491
齊木道跡－岡山県立大学建設に伴う発掘調査企（同上120）	広島県（34）	970331
巣山古墳群 金黒池東遺跡・奥ヶ谷窓跡・中山遺跡・中山	広島県教育委員会	960329
古墳群四川遺跡・西山古墳群 服部遺跡・北漢手遺跡 森木遺跡・高松田中遺跡－中国横断自動車道建設に伴う 発掘調査企4－（同上121）	草野千軒町遺跡発掘調査報告 V	960329
下芝加瀬跡－鳥取邑久町圓場寄宿寮に伴う発掘調査企（同上122）	広島県立歴史民俗資料館	970331
岡山県立博物館	広島県立歴史民俗資料館研究紀要 第1集	970331
歴史を彩るひとびと－両山の大名と家臣たち－	繰り出された歴史の世界の豪華・傳後 一透町・城輪・市・萬葉一	970425
吉備一大地からのメッセージ	広島県立歴史民俗資料館	970331
	川に生きる－江の川の優秀文化II－	971009
	広島県立歴史民俗資料館研究紀要 第1集 広島県立歴史	970829
	民俗資料館 広島県みよし風土記の丘 年報 第15号	970829
	平成8（1996）年度	970829
	（財）広島県埋蔵文化財調査センター	970331
	研究概要 VI	9703
	年報12（平成7年度）	9703
	年報13（平成8年度）	9710
	平家ヶ城跡発掘調査報告書（広島県埋蔵文化財調査センター調査 報告書第144集）	970331
	金口古墳群（同上第145集）	970331
	田上第1・第2号古墳（同上第146集）	970331
	打瀬山遺跡群A・B地点（同上第147集）	970331
	千代田流連回地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 （T）（同上第148集）	970331

横ヶ原鉄道跡発掘調査報告書（同上第149集）	970331	高木遺跡 4次・桑原田中遺跡 3次・畠寺 6号墳—（同上第88集）	
桜井第2号古墳発掘調査報告書（同上第150集）	970331	中村松田遺跡（同上第59集）	970331
丹波遺跡（同上第151集）	970331	釜の口遺跡 6・7・8次調査（同上第60号）	970815
国宮山・丸北土地区改良に係る埋蔵文化財発掘調査報告書（同上第152集）	970331	松山町 7号墳（同上第61号）	970901
上ノ堂遺跡（同上第153集）	970331	愛媛県越智郡大西町藤山歴史資料館	
龍王山1号遺跡（同上第154集）	970331	藤山歴史資料館展示案内1997	970520
出羽遺跡（同上第155集）	970331		
三原城跡（同上第156集）	970331		
県はむき直し事業（川内東部・南部地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書（同上第157集）	970331		
(財) 広島市歴史科学教育事業団			
埴輪作り体験一平成7年度考古学教室記録集一	960301		
石器部一平成8年度考古学教室記録集一	9703	施行遺跡一送電施工事に伴う埋蔵文化財調査報告書—	970331
広島城外陣跡城北交差点地点免提調査報告書（(財)	9703	（北九州市文化財調査報告書第71集）	
市歴史科学教育事業開催報告書18)		小倉城跡3—普請所跡の検査—（同上第72集）	970331
寺山遺跡発掘調査報告（同上19）	9703	北九州市立考古博物館	
香音跡発掘調査報告（同上20）	9703		
福山市教育委員会			
福山市尾上遺跡一大林寺墓地造成に伴う発掘調査報告書一	951001	研究紀要 Vol. 4	9706
池ノ内駿跡遺跡	970331	特別展国韋—第15回特別展—	970726
古城山遺跡一津之郷町住宅団地造成に伴う発掘調査報告書一	970331		
府中市教育委員会			
府中市川内遺跡（市埋蔵文化財調査報告書第8号）	970331	(財) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	
(財) 座間市教育文化振興事業団・文化財センター		高瀬遺跡—第8地点—（市埋蔵文化財調査報告書第192集）	960331
山崎1号遺跡発掘調査報告書	960331	片伊田遺跡2（同上第195集）	961031
（文化財センター調査報告書第6号）		小倉城跡3（同上第197集）	970331
安芸国分寺東方遺跡発掘調査報告書（同上第12号）	9703	高野遺跡（同上第198集）	970331
山口県（35）		能力工場施設整備事業実施報告書10（同上第199集）	970331
下関市教育委員会		Memoirs of public Corporation for Archaeological Operations of Kita Kyu Shu-City No.11	9703
拂曉遺跡—山口県下関市人字吉田地方内地に拂曉遺跡発掘調査報告書（同上第60集）	970331	大橋前田遺跡一大橋前田1号線改正好工事に伴う埋蔵文化財	970331
下関市立考古博物館		財發掘調査—（同上第101集）	
研究紀要第1号	970331	源崎遺跡5（第6地点・第7地点）（同上第202集）	970331
下関市立考古博物館年報2（平成8年度）	970331	森山西遺跡T区—德力・葛原城道路新設改良工事に伴う埋	970331
山口市教育委員会		藏文化財の発掘調査報告3—（同上第203集）	
山口市内遺跡詳細分類調査（古歌・湯田地区）（市埋蔵文化財全般告白第64集）	9703	森山西遺跡II区—德力・葛原城道路新設改良工事に伴う埋	970331
赤堀内塙（同上第67集）	970331	藏文化財の発掘調査報告4—（同上第204集）	
出土銭貨貯金研究会		丸丸遺跡I—一般国道290号直方バス停建設工事に伴う	970331
わが国における銭貨生産—出土銭貨研究会第4回大会報告要旨—	971001	埋蔵文化財の発掘調査—（同上第205集）	
徳島県（36）		水丸丸遺跡II—北九州水丸丸・則末地区周辺理業事	970331
徳島県立博物館		岡傾調査報告1—（同上第206集）	
辰生生産遺跡の調査—徳島県阿南市若杉山遺跡—	970115	片伊田遺跡3～V・VII区の調査—（同上第207集）	970331
鳴門市教育委員会		社の木遺跡—市営住宅・社の木田地建設に伴う埋蔵文化財	970331
鳴門市埋蔵文化財調査報告書2	970325	の発掘調査報告—（同上第208集）	
丸亀市教育委員会		屏坂遺跡（第2地点）（同上第209集）	970331
史跡丸亀城跡保存整備基本計画	9703	埋蔵文化財調査年報13（平成7年度）	970331
愛媛県（38）		福岡市埋蔵文化財センター年報 第16号	971203
松山市教育委員会		博多（同上第126集）	960331
松山市埋蔵文化財調査年報2	970930	南八幡遺跡第1次・三筑遺跡第2次調査—古墳時代集落、	970331
松山市考古館		近世糞窓の調査報告—（同上第488集）	
朝日谷2号墳	971018	誰問B遺跡（同上第489集）	970331
古占沼遺跡第8・9次調査（市文化財調査報告書第53号）	960331	野方坂原遺跡—付銀大坂遺跡第3次調査（同上第490集）	960331
小野川流域の遺跡（同上第57集）	961225	瀬田・水ヶ元遺跡—香椎A遺跡第1次・梅ヶ崎遺跡・博多遺跡20次（同上第491集）	960331
悉曇地区的遺跡Ⅲ—経石山古墳2次・枝松遺跡5次・舞咲	970321	小原諸跡—大原B遺跡第1次調査—	970301
		カルメル修道院内遺跡4—カルメル修道院内遺跡5次調査—	970331
		有田・小田郡 第29集	970331
		博多58	970331
		博多59	970331
		松竹周辺遺跡調査報告書第18集	970331
		原遺跡第1次調査（同上第492集）	960331
		尼崎市寺道跡2（同上第493集）	960930
		福岡市早良区 叉付田呂田遺跡17（同上第494集）	961226
		福岡市早良区 三郎丸丸山遺跡（同上第495集）	970331

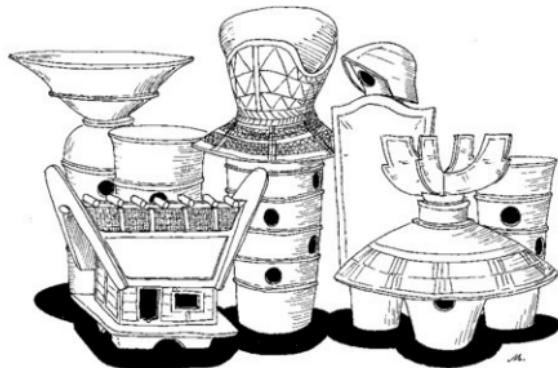
藤崎遺跡 第2次調査報告（同上第496集）	970331	久留米城下町 呉服町遺跡（同上第104集）	951031
金隈小瀬遺跡（同上第497集）	970331	不光院遺跡（同上第105集）	960131
福岡城跡（同上第498集）	970331	二本木遺跡 第10次調査（同上第106集）	960131
谷上古墳（同上第499集）	970331	白山西脇敷遺跡（同上第107集） 小載	
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告－3次郎丸遺跡	970331	宏福寺遺跡 第5次調査（同上第108集）	951225
第2次調査		道藏遺跡 II（同上第109集）	960229
郵町 17-都町遺跡群 第55次、第56次調査報告－（同上第500集）	970331	平成7年度久留米市内遺跡群（同上第110集）	960331
麦野C、南八幡（同上第501集）	970331	上津・藤光遺跡群－上津・藤光土地区间整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査会概要II－（同上第111集）	960331
下月原天神森遺跡IV 郵町君林V（同上第502集）	970331	大曾根I 北部地区遺跡群I－県営大曾根寺北部地区開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5－（同上第112集）	960331
博多64（同上第503集）	970331	筑後山城跡 平成7年度発掘調査概要（同上第113集）	960331
西新町遺跡6（同上第505集）	970331	安佐北区遺跡群X－原安武地区開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－（同上第114集）	960331
龜崎古墳群2－龜崎古墳群A群第1次、第2次、第3次調査－ 龜崎鉄製A遺跡第1次調査（同上第506集）	970331	ベーバ木造跡 平成6年度 発掘調査概要（同上第115集）	960331
大原D遺跡2－福岡市西区大原D遺跡第4次調査報告－（同上第507集）	970331	久留米城下町 両替町遺跡（同上第116集）	960331
清洲遺跡III－第4次調査報告－（同上第508集）	970331	津幡山遺跡（同上第117集）	960331
吉田遺跡－吉田遺跡第1次、第2次調査報告－（同上第509集）	970331	城崎遺跡 第2次調査（同上第118集）	960331
糸島市下遺跡－第1次調査報告－ 因幡遺跡群－第26次調査報告－（同上第510集）	970331	日出原遺跡 第2次調査（同上第119集）	960930
査査報告－（同上第511集）		筑後川南跡（同上第120集）	961031
大橋E遺跡4（同上第511集）	970331	ヘボン木造跡 第62次調査（同上第121集）	961231
有田・小田部 27（同上第512集）	970331	ヘボン木造跡 第63次調査（同上第122集）	961231
有田・小田部 28－田邊遺跡群第175次・177次・179次調査報告－（同上第513集）	970331	久留米城下町 田舎町遺跡 第1・2次調査（同上第123集）	970131
吉武遺跡群II－赤矢I時代生活遺跡の調査－（同上第514集）	970331	久留米城外郭遺跡 第2次調査 松田家臣館跡（同上第124集）	970331
博多遺跡群第3次調査－万行寺遺跡建設にともなう発掘調査－（同上第515集）	970331	平成6年度 ヘボン木造跡 発掘調査概要（同上第125集）	970331
人部屋（同上第516集）	970331	筑後川南跡 平成8年度発掘調査会概要（同上第126集）	970331
鷹原休憩室V（同上第517集）	970331	平成8年度久留米市内遺跡群（同上第127集）	970331
郵町18－郵町遺跡群第50次発掘調査の報告－（同上第518集）	970331	安佐北地区遺跡群X－原安武地区開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－（同上第128集）	970331
井畠田C第6次（同上第519集）	970331	大曾根I 北部地区遺跡群VI 志賀大曾根寺北部地区開場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書6－（同上第129集）	970331
福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査会報－2－	970331	上津・藤光遺跡群－上津・藤光土地区间整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査会概要（同上第130集）	970331
比塚遺跡群23（同上第520集）	970331	久留米市文化財要覧	9403
清洲56－博多遺跡群第84次発掘調査報告概要－（同上第521集）	970331	小郡市教育委員会	
博多57（同上第522集）	970331	丁溝城山遺跡II－千溝工業団地造り事業関係埋蔵文化財調査会報2－（市文化財調査報告書第102集）	950331
立花守D遺跡（同上第523集）	970331	苅刈地区遺跡群II－苅刈I土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告2－（同上第103集）	951031
郵町遺跡19－郵町遺跡群第51・54次調査報告－（同上第525集）	970331	苅刈地区遺跡群II－苅刈II土地区画整理事業関係埋蔵文化財調査報告4－平成3年度度差報告－（同上第105集）	960329
野多目A遺跡4－野多目A遺跡群第4次調査報告－（同上第527集）	970331	小郡の堀遺跡2（同上第106集）	960329
雄瞬解阿辺道跡群－雄瞬解遺跡6次調査 南八幡遺跡7次調査－（同上第528集）	970331	井上南北遺跡（同上第112集）	970130
井尻B遺跡5・第6次調査報告（同上第529集）	970331	小板井川塚遺跡2（同上第113集）	961220
此恵遺跡群（24）（同上第530集）	970331	祖原山の土塁跡3－九州交通運輸公社小郡トックターミナル建設関係事業埋蔵文化財調査報告2－（同上第114集）	970331
霧峰本原4次（同上第531集）	970331	福岡市文化財調査報告書2－公共施設等埋蔵文化財調査報告1－（同上第115集）	970331
舞松原古墳（同上第533集）	970331	埋蔵文化財調査報告書2－市道・都市計画街路関係埋蔵文化財調査報告1－（同上第116集）	970331
唐木青木遺跡3（同上第534集）	970331	三沢寺小路遺跡1（同上第117集）	970331
大谷遺跡群－底田大谷遺跡群5次調査－（同上第537集）	970331	西島島遺跡5（同上第118集）	970331
松原遺跡－松原古墳群第1次・松原遺跡群3次調査報告書－（同上第540集）	970331	筑紫野市教育委員会	
櫻木櫻田遺跡（同上第542集）	970315	堀池遺跡－福岡県筑紫野市大字二日市－（筑紫野市文化財調査報告書第47集）	970331
博多60（同上第543集）	970331	高須原遺跡－筑紫野市阿佐町所在遺跡の調査－（同上第48集）	970331
史跡福岡城跡－東の丸隕石調査－（同上第545集）	970228	太宰府跡会場跡地開発企画（同上第52集）	970331
津浦遺跡8－平成7・8年度発掘調査概要報告－（同上第545集）	970315	下ノ屋遺跡－福岡県筑紫野市所在遺跡の調査－（同上第52集）	970331
福岡市埋蔵文化財年報V ol.10－平成7（1995）年度－（福岡市埋蔵文化財調査報告書第65集）	970228	常盤遺跡 第2次発掘調査－福岡県筑紫野市大字常盤所在	970601
田村遺跡 12	970331	遺跡の調査－（同上第55集）	
久留米市教育委員会		太宰府市教育委員会	
西行古墳群（市文化財調査報告書第84集）	940331		
神道遺跡 第16次調査（同上第103集）	951130		

筑前国分寺跡 I (太宰府市の文化財第32集)	970315	熊本県 (43)
江道跡 (岡上第33集)	9703	鹿本市教育委員会
宝山遺跡群II・宝満14・16・18・(岡上第34集)	970317	熊本市埋蔵文化財発掘調査報告書1号 (昭和63年度～平成3年度)
太宰府・佐野地区遺跡群VI・フェ道跡跡I・2・3・4次調査 報告書 - (岡上第35集)	9703	9503
太宰府跡 (岡上第36集)	9703	池辺跡 II (百寮遺跡C地立・堂宇遺跡発掘調査報告書)
豊津町教育委員会		960331
馬舌遺跡 - 桜井京都府郡島津町大字岡作所在遺跡の調査 - (町文化財調査の報告第17集)	960331	熊本市埋蔵文化財発掘調査報告書
風鳥遺跡 - 桜井京都府郡島津町大字豊津字台ヶ原所在 遺跡の調査 - (岡上第18集)	970331	971001
福間町教育委員会		
古内殿古墳群 (町文化財調査報告書 第7集)	940331	大分県 (44)
八重山古墳群 (岡上第9集)	960329	大分県教育委員会
手光遺跡遺跡 (岡上第10集)	960331	小泊遺跡 (自転車道開設付近) 市立小泊中学校
手光の跡遺跡	9712	告書 (第3集)
津屋崎町教育委員会		宮園遺跡 原田遺跡 岩谷古墳 武珠S.A地区遺跡群
須田多古墳群 - 熊谷郡湯郷整備事業実施区域に伴う発掘調 査報告書 - (町文化財調査報告書第12集)	960329	950331
水巻町教育委員会		谷川遺跡 (阿上4)
立屋敷遺跡 - (第3次) (町文化財調査報告書)	970331	古城山 (大分南バイパス予定地内遺跡)
額田町教育委員会		大分県内遺跡調査測量概報 (大分県内遺跡発掘調査概報5)
城塙遺跡 - 社会福祉法人ひとみの里施設建設に伴う発掘調 査報告書 - (町文化財調査報告書第3集)	970331	一般道路10号 (戸式・大斜坡) 工事に伴う埋蔵文化財発
豈利町教育委員会		970331
豈利町 (町文化財調査報告第15集)	950331	探査調査概報 第3集
史跡豈利分水跡 - 一堀尾製塗及び環境整備事業実施報告書 - (岡上第16集)	970331	大分県埋蔵文化財 5 - 平成7年 (1995) 年度版
佐賀県 (41)		下原遺跡 (大分川ダム1号工事用道路建設に伴う埋蔵文化 財発掘調査報告書)
佐賀県教育委員会		大崩遺跡 - 鹿島赤坂裏求線道路改工工事に伴う埋蔵文
黒谷・水香古墳群 - 鳥栖北部丘陵新都市関係文化財調査報 告書 (1) - (佐賀文化財調査報告書第118集)	930330	化財発掘調査報告書 - (大分県文化財調査報告書第97集)
平原遺跡 I - 本川川防災護岸施設実施関係文化財調査報告書 I - (岡上第119集)	930331	日吉条多遺跡 - 佐寺横穴墓群 大造遺跡 白岩遺跡 下絃堀遺 跡 (九州州際自動車道開通関係埋蔵文化財発掘調査報告書6)
平原遺跡 II 同上 I - (岡上第120集)	930331	松木遺跡 (岡上7)
東山田一本杉遺跡 - 九州橋樋新幹線関係埋蔵文化財発掘 調査報告書18 - (岡上第125集)	950331	ガランジ遺跡 - 稲田遺跡 稲田丸茂跡 国道210号バイバ
内野山北窓跡 - 岡上20 - (岡上第129集)	970329	ス (木の上工区) 建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - 横尾遺跡 2遺跡 - 久承寺2遺跡 (大分土地区画整理事業に伴 う埋蔵文化財発掘調査報告書)
佐賀市教育委員会		三ヶ教田遺跡C地点 - 一堀尾製塗線道路改良工事に伴う埋蔵 文化財発掘調査報告書 - (大分県文化財調査報告書 第98集)
丸子布道跡 III - 3区の調査 - (市文化財調査報告書第78集)	970331	大分市歴史資料館
金立遺跡 I - 1・3区の開発 - (岡上第79集)	970331	木と日本人のくらし - 平成米騒動 - その原点 -
西千布道跡 2 - 7区、古貞遺跡 1・12区 (岡上第80集)	970331	961025
下和泉一本椎遺跡II - 4 - 9区の調査 - (岡上第81集)	970331	大分市歴史資料館年報1996
妙常寺北遺跡 (1・2区) - 妙常寺南遺跡 (1区) (岡上第82集)	970331	961031
牛田寺遺跡IV - 9A区調査 - (岡上第83集)	970331	
牟田寺遺跡V - 9B区調査 - (岡上第84集)	970331	
佐賀市埋蔵文化財調査報告書 - 1995年度 - (岡上第85集)	970331	
徳水遺跡群 I - 徳水遺跡1区 - 佐賀市久保泉工業用地隣接 埋蔵文化財発掘調査報告書 4 (岡上第86集)	970331	
舎面町教育委員会		
No.27氏家行広跡跡 - 佐賀県立海浜型「少年自然の家」建 設に伴う発掘調査 - (町文化財調査報告書)	960331	
白石町教育委員会		
多田遺跡 - A・B・C・D地区 - (町文化財調査報告書第3集)	930331	
東山遺跡 - A地区 - (岡上第4集)	930331	
妻山遺跡 - B地区 - (岡上第5集)	930331	
波ノ江一本松籠遺跡 - (岡上第6集)	930331	
妻山古墳群4号墳 (岡上第7集)	940331	
道臣谷古墳 I (岡上第8集)	950331	
鹿児島県 (46)		
加世田市教育委員会		
上加田遺跡 (佐賀教育委員会埋文発掘調査報告書)		960320
ヘゴノ原遺跡 - 佐賀盆地古坟群島農道整備事業に伴う埋 蔵文化財発掘調査報告書 - (岡上1)		970223
佐賀市教育委員会		
国・大学等の機関		
文化庁		
発掘された日本列島 97 (新発見考古遺蹟)		970620
国立歴史民俗博物館		
国立歴史民俗博物館研究報告 第70集		970131
国立歴史民俗博物館研究報告 第71集		970328
国立歴史民俗博物館研究報告 第73集		970328
国立歴史民俗博物館研究報告 第74集		970328
国立歴史民俗博物館研究年報 4 (1995年度)		970328
奈良國立文化財研究所		
奈良國立文化財研究所年報 1996		970315
奈良國立文化財研究所飛鳥資料館		
道跡を覗る		971006
東京大學埋蔵文化財調査室		
東京大學構内遺跡調査研究年報 1 1996年度		970331
東京藝術大学埋蔵調査室		
上野恩賜跡 - 東京藝術大学音楽部附設音楽高等學校跡		970331
設定期地點地業業主設置予定地地點指標調査報告書 (東 京藝術大学構内遺跡発掘調査報告書 1集)		
東京都立大学人文学部考古学研究室		
真八郎遺跡 II (都立大学考古学報告 1)		970326

人頭遺跡調査・丹波山崎の人頭遺跡調査	970331	山川芳一 岡山県の算額 藤田秀吉	
京都大学综合博物馆			970615
京都大学综合博物馆春季企画展展示回録（平者の武装－5 世纪の金工技術－）	970415		9707
名古屋大学文学部考古学研究室			
名古屋大学文学部研究論集128（考古学出版第12集 史学43）	9703		
考古資料ソフテックス写真集 第12集	970315		
國學院大學文学部考古学研究室			
物見跡遺跡1996（国学院大學文学部考古学実習報告第30集）	960725		
柳又遺跡A地点第7次発掘調査報告書（同上第31集）	970331		
物見跡遺跡1997（同上第32集）	970725		
関西大学博物館			
関西大学紀要 第3号	9703		
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター			
今、よみがえる古代－岡山大学埋蔵文化財調査研究セン ターの10年－	971108		
岡山大学構内遺跡調査研究年報14（1996年度）	971130		
鹿児島遺跡4－第6次開発アソート－総合センター新設 予定地（岡山大学構内遺跡発掘調査報告書第11冊）	970331		
津島南大遺跡8－第13次調査－福和原生施設北棟新設予 定地 A.W・A.X.11-12区（同上第12冊）	970331		
津島南大遺跡（同上第13冊）	971220		
ノートルダム清心女子大学			
ノートルダム清心女子大学紀要（文化学編）第21巻	970301		
ノートルダム清心女子大学紀要（生活科学学・児童学・食 品栄養学）第21巻	970301		
ノートルダム清心女子大学紀要（外國語・外國文学編）第21巻	970301		
ノートルダム清心女子大学紀要（国語・国文学編）第21巻	970301		
愛媛大学埋蔵文化財調査室			
愛媛大学構内遺跡調査企画報I（愛媛大学埋蔵文化財調査報V）	970326		
愛媛大学構内遺跡調査企画報I－園坂塚（同上V）	950330		
櫛味遺跡III－櫛味遺跡3次調査報告－（愛媛大学埋蔵文化 財調査報告書第75集）	970328		
広島大学文学部帝釈鉄道跡群発掘調査室			
広島大学文学部帝釈鉄道跡群発掘調査室年報II	960331		
広島大学文学部帝釈鉄道跡群発掘調査室年報III	970331		
九州大学文学部考古学研究室			
東アジアにおける支石墓の総合的研究－平成6-8年度科学 研究費補助金（基盤研究A 2）研究成果報告書－	9703		
熊本県・田底支石墓の調査	970331		
長崎県・大久保支石墓の調査	970331		
佐賀県・森田支石墓の調査	970331		
刊行物・個人			
佐原真・春成秀爾			
源始絵図	971128		
講談社			
弥生の世界（歴史叢書④）	970920		
石器の鑑賞（歴史叢書①）	980129		
大明堂			
空から見た古代遺跡と奈良	970529		
角川書店			
純文から弥生への新歴史像	970621		
至文堂			
日本の美術 第372号 備注	970515		
日本考古学会			
日本考古学年報48（1995年度版）	970701		
山陽新聞社			
備前焼 千年の伝統美展	97		
近藤義経・吉備人出版			
垣間見た吉備の原始古代	971010		

V. 資料紹介と研究ノート

宮山西塚古墳の測量調査
曹源寺の瓦と岡山藩の御用瓦師



みやまにしづか こふん 宮山西塚古墳の測量調査

1. はじめに

宮山西塚古墳は岡山市百枝月1477-1にある。ここは吉井川西岸の小丘陵の山麓部、南に向かって開く小さな谷の西向き斜面で、現在の吉井川堤防まで約300mの位置である。古墳のある丘陵は、古墳のすぐ北背後に標高110mほどの最高所をもち、東と西とに尾根が延びている。丘陵の半ばから東側にかけては、南向きの斜面で銅鐸の出土地が知られる⁽¹⁾ほか、尾根筋に沿って合計30基あまりの小規模な前期古墳が群をつくって分布する。いっぽう、横穴式石室をもつ後期古墳は丘陵の半ばから西に偏って対照的な分布を示す⁽²⁾。6~7基と少数でしかも散漫としている。したがって本古墳は群集墳中の一基とは言い難く、石室規模の点でも、周辺の後期古墳に対して傑出した存在である。

この古墳は、横穴式石室墳の絶対数が少なく、ましてや大形石室墳の形成がほとんど認められない吉井川西岸から砂川流域にあって、最大の石室、また石棺をもつ後期古墳として古くから注目され⁽²⁾てきた。吉備の三大巨石墳に続くランクを構成する古墳として、当時の政治動向を探るときに、無視できない存在なのである。

1990年4月1日付けで、岡山市指定史跡に指定される運びとなったのを機会に、測量を実施して資料化を図ることとした。以下に、その調査成果を報告する。

なお測量調査は 1990年4月19日から5月16日までの期間のうち、実勤延べ7日にわたり、乗岡実のほか扇崎由・高橋伸二・安川満の文化財係職員が担当して行った。

2. 墳丘

墳丘の測量は、原図が百分の一縮尺で、25cm間隔の等高線を表現した。また方位は磁北で示した。

古墳は南に延びる尾根の西向き斜面に造られており、山側となる東・北・西側には周溝が確認できる。現況での北側墳端は標高13.0mほどの高さにあるのに対して、南側墳端は標高8.0m内外で、その比高は5mもあって、かなり山寄せをした造りといえる。墳丘高は北側では1.0m、南側では6.0mである。墳端線は、西側と東側で直線的に延びる部分も



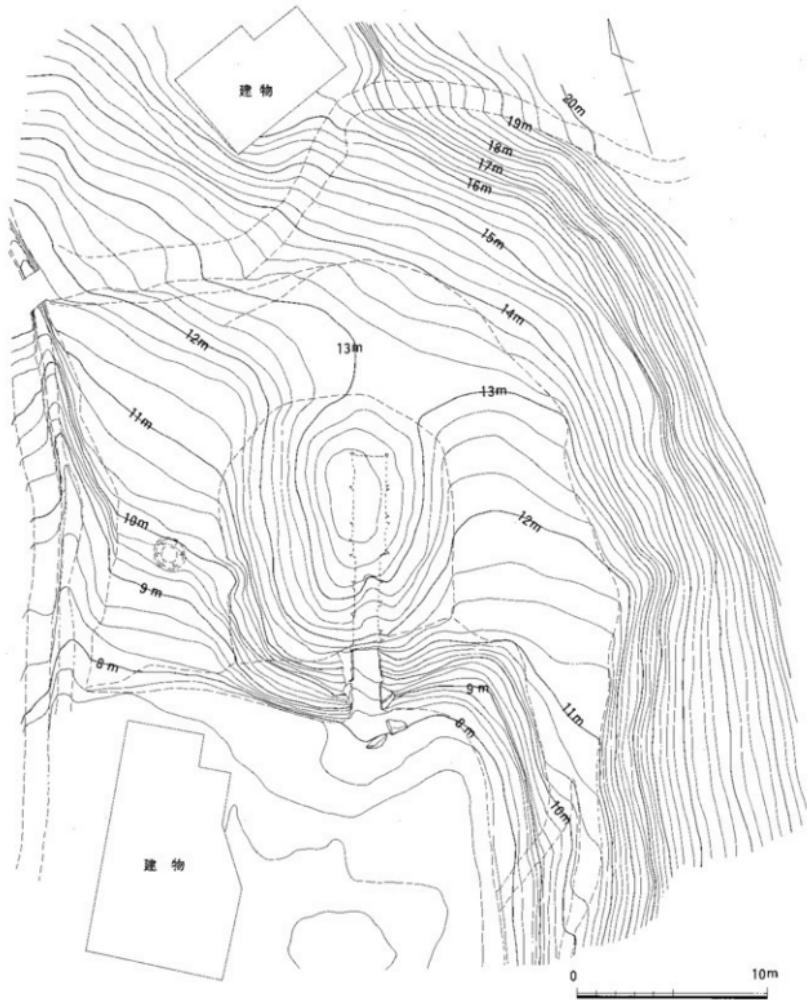
第1図 位置図



第2図 墳丘と石室開口部



第3図 蒼道と石棺



第4図 墓丘測量図

あるが、北側と南側は丸みをもっており、現況では南北17.0m、東西12.2mの楕円形をした円墳ととらえられる。しかし、周溝の底幅は5~8mもあって、本来からこの規模であったとは思えない。周溝の内外は竹藪となっており、その開墾によって相当に広げられた結果と観察できる。したがって、本来の墳端線は現況よりいくらか外側にあったことになる。仮に墳端を現状での周溝半ば（最深部）付近とすると、墳丘の直径は南北20m、東西18mに見積もれる。そうすれば、現況では極端に北墳端に近い石室の奥壁の位置が、その際は南北径を三分割した場合の北寄り三分の一弱にあった公算となる。ちなみに、従来この古墳の規模は31.5m（104尺）⁽³⁾あるいは約25m⁽⁴⁾とされてきた。とくに後者の数字は、周溝の現況での山側端線（傾斜変換点）までを含む範囲に一致するが、そこまで墳丘を大きく復元するのには、無理があるようと思われる。墳丘の南部では羨道天井石が失われた部分が抉れ、別に石室内への土砂の落ち込みで陥没した部分がある。また古墳の南側は極端に平坦であるが、これは畠として開墾された結果である。

3. 橫穴式石室

石室は、全長が13.5mで、主軸（開口方向）はS [磁北]18° Wである。羨道には、玄門にほど北端を合わせて石棺の身が置かれ、さらに羨門寄りには石仏が祀られている。玄室は長さ5.3m、幅1.5~1.6mで、羨道は長さ8.2m、幅が1.3~1.5mで羨道に向かって広がっている。かろうじて両袖式であるが、無袖に近く、玄門部での平面段差は東で40cm、西で20cmに過ぎない。これは立面觀についても同様で、東壁の玄門部羨道側は大形石材による一段積みになっているものの、西壁は他部と変化ない三段積みで、玄門部での縦メジの通りもシャープではない。また玄門部での天井石の落差も25cmほどである。玄室の確認高は1.8~1.9m、羨道の確認高は1.6~2.0mで、羨道については羨門側に高さを増している。ただし、本来の床面は土砂で埋まっており、予想される石棺底部の高さから石室床を推定すれば、玄室・羨道ともあと20~30cm高かったことになる。この数字は側壁の石材の形状から類推しても妥当なところで、逆に本来の床が数十cm以上も埋もれているとは思えない。墳丘の山寄せにもかかわらず、石室の床面は玄室から羨道の半ばまでは、水平に近いと見込でもよさそうである。

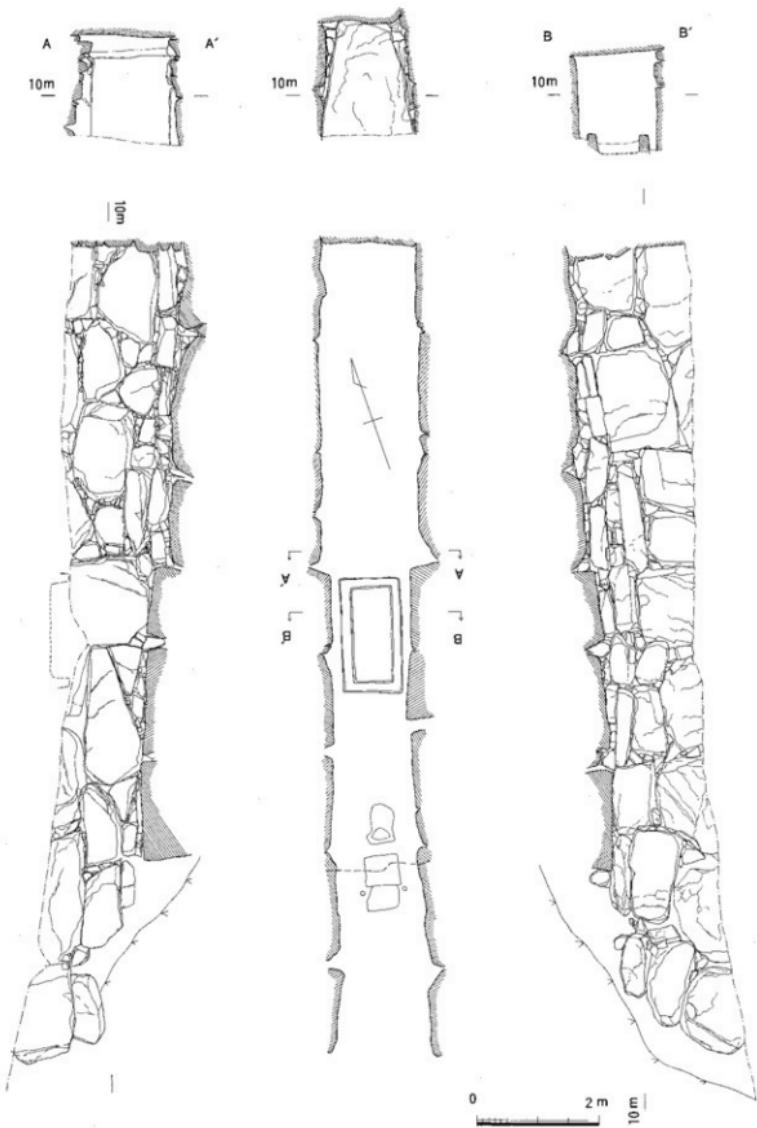
石室の石材は花崗岩が主体で、表面が滑らかなものが目立っている。自然石のほか、粗削り材を含んでいる。奥壁は一枚、恐らく立石で、上部は両側壁との間に間詰石を施す。奥壁での基底幅155cmに対し、その頂部は120cmで、そのぶん持ち送りを持っている。玄室・羨道とも築石は三段積みが原則で、一部に二段、四段の部分を含んでいる。また、先述のように東壁玄門部のみ一段である。積みかたは、長方体の石材を横に置くのが基本で、各石材の上面は水平である。しかし、成層積みではない。間詰石はあるが決して多くなく、小形の石材は天井石を乗せるための高さ合わせに使われたものが目立っている。

天井石は、玄室で三枚、羨道で三枚が確認できるが、羨道についてはもう一枚あった可能性が強い。その高さは、奥壁の際が最も高く、羨門に向かって僅かずつ下がっている。現在の羨道側壁端は、現在の墳丘南端と整合性をもち、本来の端部を保っていると考えてよい。

石棺は、蓋を失っているがくりぬき式家形石棺の身と考えられ、羨道幅いっぱいに収まっている。古く勾玉を出土したと伝え⁽⁵⁾、石材は播磨産の竜山石と同定されている⁽⁶⁾。長さ186cm、玄室側の幅98cm、羨門側



第5図 玄室



第6図 石室実測図

の幅は92cm、内法の長さ161cm、同幅67~68cm、同深さ28cmである。一般的には玄室にあったものが動かされたものと考えられるが、玄門に位置を揃える状況や本来の床に乗っている可能性などを勘案すれば、その当否はにわかに決し難い。

4. おわりに

この古墳の石室全長13.5mは、こうもり塚（総社市）・箭田大塚（真備町）・牟佐大塚（岡山市）といった三大巨石墳には及ばないが、岡山県下で第8位ほどの規模を誇っている。ただ、そうした石室全長の割りには、本古墳は巨石墳としての印象に欠けている。その最大の理由は、玄室が小さいことで、その長さ5.3mもさることながら、奥壁幅1.55mは、岡山県下の石室全長ベスト10にも及ばない数多くの大形石室よりも小さい。復元的にみた場合での玄室高2.2mについても同様である。結果として玄室の容積は16~17m³に過ぎず、この数値だけを取り出せば、並の大形横穴式石室となってしまう。墳丘規模についても、これまで言われている直径25mもの大きさに復元するのは、無理があり、もう少し小さく見込まざるをえない。しかし、以上は本古墳の特徴であって、測量によって古墳の評価が下がったわけではない。

全長のわりに玄室が小さい特徴は、築造時期の問題とも絡んでいるかも知れない。正確な築造時期は将来の発掘調査などによらなければ確定しないが、本古墳の石室は、岡山県下で全長がベスト10以内の石室のうちでは、最も新相を呈している。無袖に近い平面、玄門部での側壁の積みかたの変化の弱さ、玄門部での天井石の段差が弱く、玄室と羨道の天井石の高低差がなくて連続的なこと、奥壁が一枚の鏡石であること、石材の平滑度が高いことなどである。恐らく7世紀に入ってから造られたのである。むろん本古墳が前方後円墳でないことも、前方後円墳廃絶後のものと考えるうえで、整合性をもってくる。大形石室墳のうちでは、かなり新しいものとすると、本墳のもつ重大さは鮮明となってくる。弥生時代以降の集落はあるが、大形の前方後円墳ではなく、六世紀後半の大形横穴式石室墳や顕著な群集墳がみられない吉井川西岸地域にあって、七世紀前半に唐突に出現した大形横穴式石室墳、しかも畿内政権に連なるともいう竜山石の石棺を持っている。その歴史的な評価は今後に委ねた方が、六世紀後半の大小の古墳が高い密度で分布する邑久郡の平野と吉井川を挟んで対峙し、また吉井川をめぐる水上交通を掌握できる立地にあることが鍵になる。また、従来は山裾主体であったに違いないこの地域の耕地開発が、氾濫原である平地部を対象とした時期がいつであったのかという問題も気掛かりである。

今回の測量調査は、古墳の所有者である横山元氏の多大なご協力の賜物である。最後になりましたが、深く感謝申し上げます。

(乗岡 実)

注

- (1) 近藤義郎「備前百枝月発見の銅鐸」『古代吉備』4 古代吉備研究会 1951
近藤義郎・根木修「岡山市百枝月発見の銅鐸」『考古学研究』第19巻4号 考古学研究会 1973
- (2) 永山卯三郎「第一編 上古」『岡山縣通史』1930。なお同書にいう所在地の「百枝月、字裏師上、一五〇六番」は誤録とみられる。
- (3) (2)と同じ。
- (4) 木村幹夫「原始・古代」『上道町史』岡山市役所 1973
- (5) (2)と同じ。
- (6) 同壁忠彦・歳子「石棺石材の同定と岡山県の石棺をめぐる問題」『倉敷考古研究集報』第9号 1974

曹源寺の瓦と岡山藩の御用瓦師

1.はじめに

曹源寺は岡山市円山1069ほかにある臨済宗妙心寺派の巨大寺院である。岡山城本丸の東南東3.5km、操山丘陵の南裾に位置し、仏殿をはじめ20棟ほどの近世建物、墓所、庭園などが現存する。1698年（元禄11）に池田綱政によって造営され、以後の歴代藩主とその家族の墓（正覚寺墓所）が設けられた大名家の菩提寺である。1959年から県史跡であったが、1998年に岡山県吉永町の和意谷墓所などと合わせた「岡山藩主池田家墓所」の構成要素として、広大な境内の全域が国史跡となった。

曹源寺の瓦は、編年上の基準になりうるものを感じているだけでなく、藩主に直結する御用瓦師の動向を知るうえで重要な資料である。このうち経蔵の南西に保管されていた瓦について資料提供を受けたので、その調査成果を中心に報告する。

2. 経蔵の南西保管の瓦の特徴

資料は仏殿から降ろされたものが主体である。仏殿は元禄当初のものが焼失し、1824年（文政7）に再建された。しかし、資料のうちには確かに文政期の製品とみられるものほか、それ以前とみられるものが相当量あり、他の建造物で現役の瓦と同じ特徴（瓦当文様など）のものが網羅的に含まれている。したがって、膨大な曹源寺の瓦の全体を、これに代表させることができる。

報告する瓦は、瓦缶の抽出を念頭に分類し、種ごとに代表例を選んだ結果である。ただし、軒丸瓦は古相のもの2種に限り、軒平瓦も幕末・明治に属すると判断されたものはかなり削愛した。

○軒平瓦

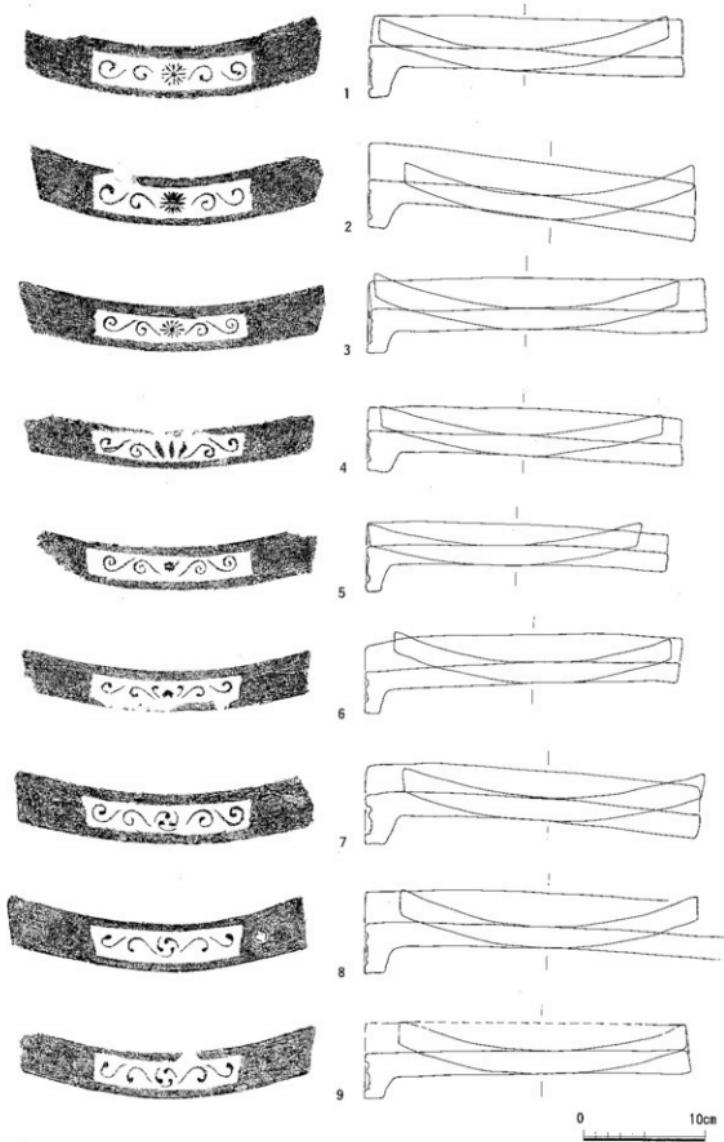
1～3は、瓦当文様に上から見た菊花弁と思える中心飾をもつ。ただし、3の中心飾は12弁をもつ確かな花弁状であるのに対し、1と2の中心飾は4本の直線が等角に交わって、その直線間の外方隙間に短い線が充填され、中心が太い点表現となる图形で、花弁との保証はない。いずれも左右の唐草は細線による2転で、内が下、外が上に巻く。1・2は3に比べて瓦当上角の弧が深く、瓦当厚が厚くて、瓦当部の平瓦部への取り付けも頑丈である。また瓦当高・文様区高が高くて、そのぶん唐草が大きく、文様区脇が短い。1～3とも平瓦部凹面は丁寧に横ナデ仕上げされ、凸面はケズリ的に粗い縱ナデのち横ナデされている。凸面の横ナデ仕上げは1・2が丁寧であるのに対し、3は部分的で器面に微妙な凹凸を残す結果となっている。また1～3とも器面は灰～暗灰色で、後の9～14に比べれば炭素の吸着は劣っており、キラコ（剥離材の雲母粉）の使用も認められない。胎土は一様に淡灰～灰色に発色し、生地は細かいが1mm内外の石英粒などを含む。2は岡山城本丸中の段（以下、岡山城本丸）出土⁽¹⁾の131と同範もしくは同範の同文であるほか、これらの同文品が幸福寺（岡山市菅野）や本蓮寺（岡山県牛窓町）でも確認できる。

4は中心飾が三葉である。やや小形の製品で、唐草の巻きが弱く、瓦当高が低くて、上角の弧が浅いが、その他は3に似る。中心飾三葉は岡山城本丸の下層期に多見され、その系譜を引く。

5は中心飾が宝珠とみられるが、左上、右上、下の三方に范傷が入っている。4よりさらに小形で、



第1図 曹源寺周辺地図 (1/10,000)



第2図 曹源寺の瓦 I

そのぶん文様区脇もさほど長くなく、瓦当厚も薄いが、他の特徴は3に似る。とくに唐草の巻き方や大きさは同一的である。岡山城本丸121や金山寺（岡山市金山寺）例と同範である。

6は中心飾が宝珠で左右に唐草様の内抱えの巻線を伴う。4と同大で、全般に良く似るが、唐草が小さく、平瓦部凸面の横ナデが丁寧である。岡山城本丸98と同範である。

7~14は中心飾に三巴を据え、唐草は1~6と同じく内が下、外が上に巻く、定式的な岡山系三巴文軒平瓦⁽²⁾である。

このうち、最も古相を示す7は、中心飾の巴の尾部が反時計方向に流れる左巻きで、以後のものに対して瓦当高や文様区高が高く、文様脇区が狭く、細線表現の唐草が大きくて巻きが深い。また瓦当厚が厚く、瓦当部の平瓦部への取り付けも頑丈で、瓦当断面が台形を呈している。製品の大きさは1・2と同大で、唐草の巻き、胎土・色調・焼成・炭素吸着度などの特徴も、これによく似る。岡山城本丸120と同範もしくは同範の同文である。

8は、7より文様区脇が長いが、瓦当上角の弧は深い。唐草はやや小さくなり、巻きが浅く、細線表現ではあるが、巻き端部は丸みをもって脛みはじめている。この個体では文様区脇に、刻印を施す。胎土、炭素吸着度、平瓦部の調整などは7と大差ない。

9は、8より平瓦部が小さいが、瓦当の形態・文様、平瓦部の調整はほぼ同じである。最大の違いは、炭素の吸着がなくて器面全体が黒灰色に発色することと、瓦当上角の稜線がシャープなことである。この2つの特徴は、1~8には無かった要素であり、10以降に受け継がれる。ただし、9では瓦当面ほかのキラコは未だ認められない。

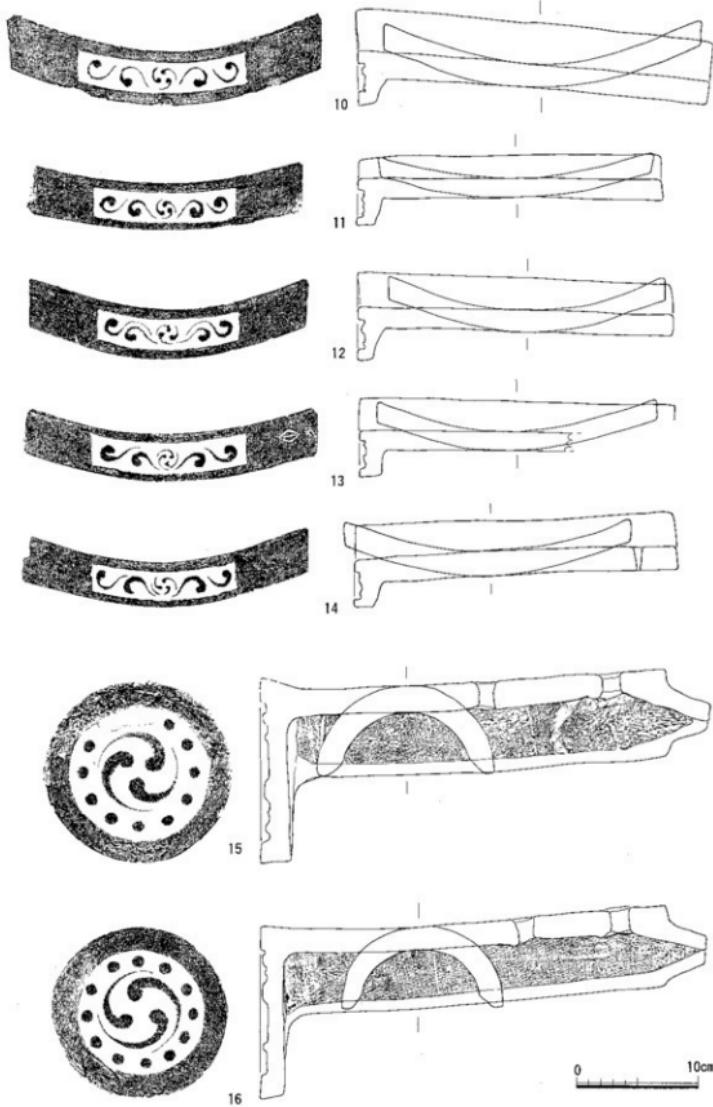
10~13はキラコを用い、文様の唐草が太く高く隆起し、巻き端は巴文の頭部状に丸くなっている。また、瓦当厚は薄く、平瓦部への接合も華奢である。瓦当上角の弧は7よりかえって深い。さらに1~9に比べて焼成が良好で堅緻である。このうち10は大形の製品で、文様区、応じて中心の巴文も大きく、平瓦部凹面にもキラコを伴い、凸面の横ナデに先行する縦調整はハケである。11は小形の製品で、やはり平瓦部凹面にもキラコを伴う。12は外側の唐草の始まりが中心飾脇にあり、キラコを平瓦部凸面にまで施し、器面の炭素吸着がとくに良好で銀化している。13は瓦当上角の稜がとくにシャープで、文様区脇に刻印を施す。キラコは瓦当のほか平瓦部凹面に観察できるが、凸面はない。

14は10~12に比べて文様線の盛り上がりが鈍く低くて粗雑で退化的、キラコは明瞭には観察できない。瓦範は石膏型かも知れない。平瓦部凹部のナデは極めて丁寧で、器面の炭素吸着も良く銀化している。いっぽう平瓦部凹部のナデは僅かで、全面に小さなアバタ状の窪みあって、その状況から型造りの平瓦である可能性がうかがえる。また平瓦部背後に、ハリガネ用とみられる細い穴をもつ。

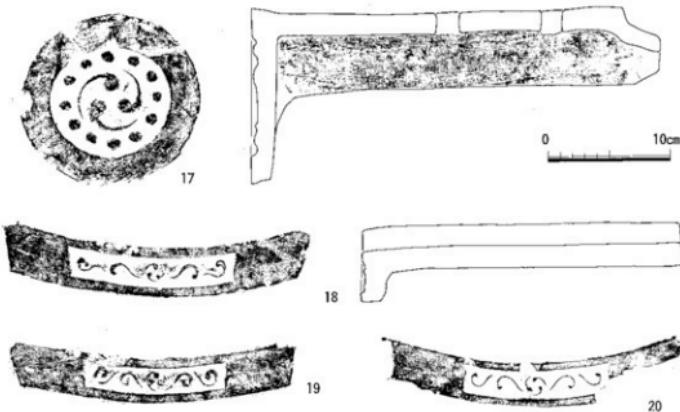
◎軒丸瓦

15は保管瓦中で最古相を示す。瓦当文様は左巻き三巴で、珠文数は12である。文様区直径を瓦当径で割った比率は0.74と、外周部が狭い。巴頭部は頂部が平坦で断面が台形であるのに対し、尾部断面は山形を保ち、珠文の間隔は広い。丸瓦部は、瓦当裏が明瞭にクビレ、器面は板状工具による面取り気味の縦ナデで、後半部に釘穴が2つ開く。丸瓦部の内面には、鉄線による粘土塊の切断痕というコビキB⁽³⁾で、ゴザ目状に粗い布袋とその吊紐の圧痕が観察できるが、細板状工具によるタタキ痕は認められない。器面は灰~暗灰色で、胎土は一様に灰色に発色し、生地は細かいが1mm内外の砂粒を含む。岡山城本丸632や安住院Ⅲ類⁽⁴⁾と同範もしくは同範の同文である。

16の瓦当文様は右巻き三巴で、珠文数は12である。15と同様、キラコは施されていない。文様区比は0.71で、15より微妙に外周が広い。巴の尾部も断面が蒲鉾形に近づいているが、尾部の長さはかえって長い。製品の長さは15とほぼ同じながらも、瓦当径は小さく、応じて丸瓦部径も小さく、瓦当も薄い。瓦当裏の丸瓦部のクビレも弱く、15よりも華奢な造りであるが、軽量化を果たしているともいえる。やはり後半部に釘穴を2つもつ。丸瓦外面の調整は15と同じであるが、板ナデの単位幅は狭い。内面は、コビキB痕に、ゴザ目状に粗い布袋痕であるが、吊紐痕はなく、部分的に細板状工具による縱方向のタタキ痕が観察できる。胎土・焼成は15と大差ない。



第3図 曹源寺の瓦II



第4図 大林寺(1753年)の瓦

3. 経蔵の南西保管の瓦の製作時期

軒平瓦の1・2・7、軒丸瓦の15は、1698年(元禄11)の曹源寺創建時のものと考えてよい。これらは経蔵の南西保管の瓦のうちにも一定量あるだけでなく、1698年銘の鬼瓦(後述)が現役で掲げられている客殿を含め、境内の複数の建物で散見でき、偶然的な搬入品などではなく、曹源寺で本来に相当量が存在したと考へて矛盾ない。むろん、曹源寺の現存瓦を見渡しても、これより古そうな瓦は確認できない。この一群は、1632年(寛永9)を下限とする岡山城本丸の下層期の瓦群^[5]や1654年(承応3)を下限とする岡山城二の丸の承応の洪水砂以深の瓦群^[6]より新しく、1753年(宝暦3)とみられる大林寺本堂の瓦(後述)より古い特徴を備えること、その傍証材料といえよう。

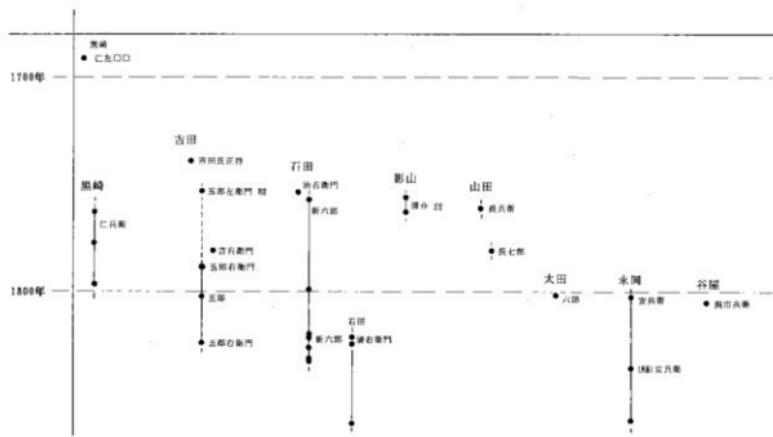
軒平瓦の1・2・7、軒丸瓦の15を1698年のものとすると、逆にこれらの瓦は実年代の判る基準資料となりうるが、岡山系三巴文の軒平瓦がこの時すでに成立していること、丸瓦部内面の布袋吊紐痕がこの頃まで残存する^[7]こと、細板によるタタキが未だないことなどは注目される。

岡山系三巴文軒平瓦の8・9、軒丸瓦の16は、17世紀中葉に位置づけられる。この頃の編年基準となりうる近隣の資料に大林寺(岡山市西川原)の瓦がある。本堂は棟札や鬼瓦銘、建築様式から1753年の建造が判明している^[8]。伴う瓦のうち最古相でまとまった量をもつものを17~20として図に掲げた。軒丸瓦の17は、曹源寺の16より巴の尾部が短く、外周が広くて新相であるが、瓦当裏のクビレは同等かやや深めである。丸瓦部内面は粗い目の布袋痕のみのものと、曹源寺16のように部分的に細板状工具によるタタキ痕を残すものがある。この種のタタキは江戸後期に多用され、ここでは新しい要素といってよい。曹源寺16と大林寺17を比べれば、文様の上では前者が先行的であるが、その他の特徴を含めれば、さほど年代差がないように思われる。軒平瓦でも同様に、大林寺18~20は、文様とりわけ唐草の巻きが曹源寺8および9に近似し、焼成や瓦当高の低さの点では、より9に近い。

曹源寺の3~6は、文様を除く特徴が8・9と同じで、やはり18世紀中葉を軸とし、一部が前葉に遡る可能性もある。

キラコを用い唐草が太くなつた10~13は18世紀末以降の製品と考えられる。このうち10は中心飾の巴の径や唐草の巻きが大きく、先行的にも思えるが、全体として8・9とは特徴に相当の開きがあり、全部が1824年(文政7)の仏殿再築時のものかも知れない。

14は製作技法が異質で明治に入つてからの製品ではなかろうか。



第5図 二日市・七日市の瓦師の動向

注2書の一覧表のうち年代・瓦跡所在地名の判る資料から作成

4. 曹源寺の瓦を作った瓦師

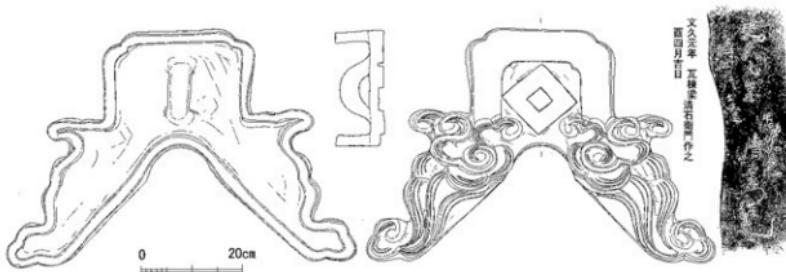
これを考える資料に、境内の建物に現存する瓦銘がある。地上から双眼鏡で判読した。客殿の大棟の鬼瓦は丑を意匠にしたもので「元禄十一□ 四月十三□」「御野郡 二日市村」の銘がある。また、山門の鬼瓦には「安永六丁酉 十一月吉祥日」「瓦師棟梁 吉田五郎右衛門」、さらに仏殿の鬼瓦には「文政七 甲申歳 六月下旬」「瓦師棟梁 吉田五郎右衛門 石田清右衛門」とある。吉田五郎右衛門・石田清右衛門の住所は記されないが、岡山市近郊に現存する他の瓦銘⁽⁹⁾に照らして、彼らの住所も備前国御野郡二日市である。創建から幕末まで一貫して、曹源寺に瓦を供給したのは二日市の瓦師であった可能性がうかがえよう。

二日市は岡山城下の南端にあり、南隣の七日市と合わせて江戸中・後期の瓦の大産地であった⁽¹⁰⁾。いまのところ瓦銘資料のうえでは、彼らが興隆するのは元禄年間からで、曹源寺創建時の瓦作はその初期に位置づけられる。曹源寺での仕事は、一時に供した莫大な瓦の量からして、彼らにとって名実ともに画期的なできごとであったにちがいない。

岡山市近郊の数多くの瓦銘資料との共存状況から判断して、彼らの軒平瓦の主力は岡山系三巴文である⁽¹¹⁾。なるほど曹源寺も例外でなく、現役瓦では実に9割以上が岡山系三巴文に統一されて、屋根景観に嚴肅さを増すのにも役だっている。しかし、その統一度は18世紀後葉以降にいっそう高まったようで、それ以前には少量ずつながらも三巴文でない1~6があったのも事実である。他所での瓦銘資料・岡山系三巴文との共存状況、中心飾を除く製品全般の類似性からして、1~6も同じ瓦師の製品と考えられる。

さて、曹源寺では吉田五郎右衛門と石田清右衛門の名がみえ、彼らが御用瓦師として活躍したことことが判るが、二日市・七日市の瓦師銘を総覧すれば、図5に示したように、さまざまな苗字と名がうかがえる。ちなみに、彼らは藤原や橋などの姓を用いた形跡はない。吉田と石田の苗字は登場期間も長くて例数も多く、二日市・七日市の瓦師集団のなかで優勢であり、それがまた曹源寺での御用瓦師に採用されたことに繋がるのであろう。この二苗字は、岡山城本丸・御舟入(岡山市御舟入町)、松琴寺(岡山市門田本町)といった、池田家や藩に直結する施設にもみえ、あるいは主要公共事業では独占的であったのかも知れない⁽¹²⁾。そのいっぽう、この二苗字は、池田家や藩に必ずしも直結しない寺社にもみえ、恐らく城下の武家屋敷や町家も含め、幅広い供給先をもっていたようである。

吉田の苗字は18世紀中葉から19世紀前葉まで「五郎」系統が続くに対し、石田の苗字は「新六郎」



第6図 御舟入御門の鬼瓦

系統が18世紀中葉から19世紀前半にあり、19世紀には併行して「清右衛門」系統がある。石田新六郎は、作例は多いがいまのところ藩に直結する事業での銘は確認できず民需に活路をみいだした存在、中核的御用瓦師は、18世紀が吉田五郎の系統で、19世紀に新たに石田清右衛門が加わったのかも知れない。曹源寺の1777年の山門では吉田五郎右衛門のみ、1824年の仏殿では両者連名になっているのは、その点では示唆的である。

軒平瓦の瓦当脇区や平瓦小口の刻印は、こうした岡山城下の有名また無名の瓦師たちの識別記号であるにちがいないが、その集成、苗字・名との対比は今後の課題である。

本稿は、曹源寺住職の原田正道氏のご協力とご教示に多くを負っている。また、大林寺の瓦については住職の中塚秀雄氏、御舟入御門の瓦については岡山製紙株式会社のご配慮を得た。深く感謝申し上げます。なお、曹源寺の瓦の実測・拓本は八木留利子・谷口光子、御舟入の鬼瓦の実測・拓本は安川瀧があたった。

(乗岡 実)

注

- (1) 岡山市教育委員会『岡山城本丸中の段築掘調査報告書』1997
- (2) 乘岡実『岡山市近郊における近世瓦の生産と流通』『岡山市の近世寺社建築』岡山市教育委員会 1996
- (3) 森田克行「IV 屋瓦」『攝津高槻城』高槻市教育委員会 1984
- (4) 岡山市教育委員会『安住院本堂保存修理報告書』1993
- (5) 注(1)と同じ
- (6) 中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会『岡山城二の丸跡』1998
- (7) 法隆寺の瓦での年代観（『法隆寺の至寶』瓦 小学館 1992）とは整合する。
- (8) 『岡山市の近世寺社建築』岡山市教育委員会 1996
- (9) 注(2)と同じ
- (10) このほか岡山城下では、江戸前期に瓦町・七軒町周辺の瓦町があった。また江戸中・後期には城下の北西に滝本町の瓦街があり、江(恵)藤と金谷の苗字が知られて、その軒平瓦の主力はやはり岡山系三巴文である。注(2)書参照。
- (11) 注(2)と同じ
- (12) 別に、鳥取藩主池田家に直結する清泰院（岡山市滝本町）には1763年の黒崎仁兵衛の鬼瓦銘がある。

岡山市埋蔵文化財調査の概要 1996（平成8）年度 の正誤表

30頁 5行 土木行事→土木工事

30頁 13行 家庭→過程

51頁 30行 建立謹日→建立建白

岡山市埋蔵文化財調査の概要

—1997（平成9）年度—

発行年 1999年3月31日

発行 岡山市教育委員会

岡山市大供1-1

編集生涯学習部文化課

印刷 旭総合印刷株式会社